

中高年未婚・離別者の資産形成と老後不安 —就労経験者における資産形成方法と 多様な老後不安への着目—

大風 薫

千葉商科大学商経学部 准教授

【記事情報】

掲載誌：年金研究 No.28 p.28-71 ISSN 2189-969X

オンライン掲載日：2026年3月31日

掲載ホームページ：<https://www.nensoken.or.jp/publication/nenkinkenkyu/>

DOI：https://doi.org/10.20739/nenkinkenkyu.28.0_28

要旨

本稿は、中高年期未婚・離別者を対象に、資産形成の実態およびその規定要因、資産形成方法（高流動資産のみ、高流動資産および低流動資産の組み合わせ、低流動資産のみ、資産形成を何もしていない）の規定要因および資産形成と老後不安の多面的側面との関連を明らかにした。得られた結果は以下の通りである。

1) 未婚・離別者において資産形成を行っていない割合は3割を超え、特に離別女性では4割と高い。また資産形成方法には性別・配偶関係による差異がある。具体的には、低流動資産による資産形成は男性で相対的に多く、女性では高流動資産のみによる資産形成が多い傾向がみられる。また、低流動資産による資産形成は自分名義の持家保有と関連しており、資産形成方法と住居資産の形成が同時に成立しやすい生活条件を共有している可能性が示唆される。

2) 資産形成方法の規定要因は世帯収入、学歴、キャリア、居住状況、親からの経済的支援、ならびに生活設計の有無が関係しており、とくに生活設計を行っていないことや可能な限り働きたいといった将来見通しに関わる変数は、低流動資産を含む資産形成を行いにくいことと関連しており、未婚・離別者における生活設計の困難さが資産形成行動と結びついている可能性が示唆される。

3) 調査した12領域における老後不安の水準は、性別・配偶関係による差異がある。老後不安と資産形成方法との関連では、低流動資産を保有している場合に多くの領域で不安が相対的に低く、資産形成をしていない場合には不安が高い傾向がみられた。一方で、老後の生計維持手段に関わる変数を統制すると、資産形成方法の老後不安に対する効果は一部の領域を除いて弱まる傾向が確認され、老後不安の低減には資産形成の有無に加えて、老後の生活をどの程度具体的に見通せているかという条件が重要である可能性が示唆される。

以上の結果は、独身者の老後生活リスクの低減に向けて、資産形成の促進とともに、生活設計や老後の見通しを具体化する情報提供・学習機会の整備、専門家による支援ならびに低所得層や親資源に依存せざるを得ない層への重点的支援といった多面的な政策対応の必要性を示すものとする。

1 研究の背景と目的

未婚率や離死別率の増加によって、若年期のみならず中年期を独身で過ごす人々が増えている。50歳時の未婚割合は1980年時点で男性2.60%、女性4.45%であったが、2020年には男性28.25%、女性17.18%と大きく上昇している（国立社会保障・人口問題研究所2025）。2040年の予測は男性約30%、女性約20%であり（斎藤2021）、男性の3人に1人、女性の5人に1人が一生結婚をしないまま生涯を過ごすことになる。離別率についても、1980年では男性1.95%、女性3.87%であったものが、2020年では男性6.50%、女性10.64%に上昇している（国立社会保障・人口問題研究所2025）。日本の未婚者は結婚するつもりでいたができなかった人が多く、離別に関しても、離婚を予測して結婚することはまれといえ、中年で配偶者がいない人の大部分は、「不本意」な独身者といえる（山田2021）。

このように、個人の意思とは必ずしも一致しないかたちで独身状態に置かれる人が増加するなか、非計画的に独身でいる人びとは将来の生活設計が先送りになりやすい。一般的に生活設計は結婚や出産、教育などのライフイベントを念頭に置きながら検討されるからである。平河（2021）の分析では、約65%の中年未婚者が65歳以降の生活設計を考えておらず、低年齢、非正規雇用、自分以外の世帯員に生計維持を頼っているという特徴が見出されている。生活設計の道標になるイベントがなかったり、いつ訪れるのかが不明だったりする独身者が、遠い老後という漠然とした状態を見据えて生活を設計するのは容易ではない。

さらに中年期の独身者は、親の世話や介護役割を担ったり、自身のキャリア形成や心身の状態の変化が生じたりするなど、予期しない生活リスクに直面することがある（大風2023）。こうした複合的なリスクは、将来の不確実性と将来不安を一層高めると考えられる。戦後の日本社会において独身者は制度的にも慣習的にも例外とみなされてきたが、中年世代の独身者がこれまで以上に存在する社会はいままでなく（山田2019）、増大する独身者の経済的不利や将来への不安をいかに低減・解消してゆくかを検討することは、喫緊の社会課題といえる。

日本の独身者が経済的に不利な状況に置かれ、その不利が高齢期に引き継がれてしまうことは多くの調査研究によって明らかにされてきた。室住（2021）は、老後生活をまっとうに生きるには、経済的な安定が長期的に保障されることを含めた少なくとも6つの生活不安を取り除く政策や支援が必要であると指摘する。また、家計と資産の満足度は将来不安度との関係が強いことから、ファイナンシャル・ウェルビーイングの実現に向けた安定的な資産形成を実現する必要性も示されている（栗田2024）。

以上を踏まえると、独身者の持続的な経済的基盤づくりにとって、資産形成を含めた適切な生活設計は不可欠である。そこで本稿は、未婚者・独身者の将来不安や資産形成はど

のような要因によって影響されるのか、また資産形成は将来不安を軽減し得るのかという問いにもとづき、①資産形成と将来不安の関係、②資産形成および将来不安の規定要因を明らかにすることを目的とする。さらに、未婚者と離別者の違いにも注目し、資産形成と将来不安の関係を詳細に検討することを通じて、家族資源の脆弱な人びとにおける老後生活リスクの低減に向けた方策を考えてゆきたい。

2 先行研究

前節で示したように、中年期独身者の増加と将来不安の高まりは、個人の生活設計の困難さと経済的基盤の脆弱性という二重の課題としてとらえられる。本節では、こうした問題意識を踏まえ、①中年期独身者をめぐる社会問題、②老後不安・メンタルヘルスの規定要因、③資産形成の心理的影響という三つの視点から先行研究を整理する。

2.1 中年期独身者の社会問題

中年期の独身者が社会問題として注目される背景には、いわゆる「標準的なライフコース」を前提として設計されてきた制度や社会慣行が、一定規模に達した独身者を十分に包摂できなくなっているという構造的問題がある（山田 2019）。多くの人びとにとって独身者はいまだに「普通の逸脱」（Forsyth & Johnson 1995）と捉えられやすく、独身期間は結婚への「待ち時間」と理解されがちである（Timonen & Doyle 2014）。社会も個人もともに独身期間を「待ち時間」とする認識に変化がなくては社会の仕組みや個人の行動変革を起こすことは難しく、独身者自身の中長期的な生活設計や老後への備えは先送りにされ、その結果、高齢期のリスクを増幅させる可能性がある。

経済的な側面に目を向けると、独身者は勤労世代（20-64歳）・高齢期（65歳以上）のいずれにおいても既婚者より貧困率が高いことが示されている。阿部（2024）によれば、未婚者・離別者はいずれも勤労世代時点で既婚者より貧困率が高く、高齢期にはその差が拡大する。具体的には、勤労世代の男性未婚者の貧困率は17.5%であるのに対して、既婚男性は7.9%で、女性未婚者16.9%に対して既婚女性は9.4%である。高齢期では男性未婚者が37.1%、既婚男性13.5%であり、女性未婚者43.1%、既婚女性13.5%である。離別者についても、勤労世代の男性22.5%、女性25.3%、高齢期男性29.8%、女性43.6%と既婚者を大きく上回る。未婚者と離別者の比較では、勤労世代は、離別者の貧困率は男女ともに未婚者を上回り、男性について高齢期は未婚者が離別者を上回り、女性の貧困率は未婚・離別いずれも著しく高い。これらは、勤労世代の就業状況と所得水準、それらが年金額に反映された結果であり、経済的な基盤を整えることに対する「戦略的」な努力が必要な社会になったことを反映している（山田 2021）。未婚者の老後への備えを明らかにした藤森（2021）も、国民年金の未納率や老後に「頼れる人がいない」という比率を検討し未婚者の高齢期における防貧機能の脆弱性を指摘する。

また山田（2021）は学歴、同居者、家族類型と就業状況、世帯・個人年収、親密関係など50代独身者の生活実態が一樣ではないことを指摘し、将来直面する課題を明らかにしている。とりわけ未婚一人暮らし男性の社会的孤立、女性独身者の低所得や親への経済的依存は将来不安の高さと結びついていること、また、孤独死の不安を感じる割合も高く、

収入・貯金、子どもや恋人の存在はこの不安の部分的な低減にしか寄与しないとする。これらの知見は中年期の経済的基盤の脆弱性と社会的孤立が老後不安や心理的負担の形成と密接に関係している可能性を示唆するものであり、次節で整理する老後不安・メンタルヘルス研究とも強く関連する。

2.2 老後不安・メンタルヘルス

前節で示した中年期独身者の経済的脆弱性や社会的孤立は、老後不安やメンタルヘルスの問題と密接に関係している。老後不安に関する先行研究では、健康不安・経済不安・人間関係不安など複数の不安領域が相互に関連しつつ、学歴、職業、年収、金融資産、不動産保有といった客観的状況によって一定程度規定されることが示されてきた(松浦 2011)。また、生活設計を行っていることは不安の軽減に寄与するが、家族資源だけでは不安の解消に至らないことも指摘されている。

現役世代の老後生活費への不安感の要因分析を行った大塚(2023)は、シミュレーションによって80歳時点で貯蓄ゼロになる世帯以外については、民間企業の事務職・労務職の不安感の実態より悲観的であること、その要因として情報カスケードの問題を指摘する¹。また、制度的な定年がなく、継続的に勤労所得が得られる世帯の不安感は低いことも示し、高齢期の就労機会の拡大や老後生活に関する精緻な情報を現役世代に提供することが重要だと述べる。

さらに西村(2005)、田中(2014)や四方(2012)の研究からは、老後不安には経済要因と健康要因の双方が強く関与し、貯蓄や所得水準の高さや職業威信は不安の低減に寄与することに加えて、年金制度への信頼や年金以外の定期的な副次的収入があること、住居の安定性も重要な役割を果たすことなどが示されている。

これらの研究は、老後不安や心理的状态が経済的条件と密接に結びついていることを示すものであり、次節で整理する資産形成の心理的影響に関する研究へと論点をつなぐ。

2.3 資産形成の心理的影響

老後不安やメンタルヘルスが経済的条件と結びついていることが示されてきた一方で、近年の研究では、単なる所得水準や資産額だけでなく、資産の保有や資産形成行動そのものが人びとの心理状態に影響する点が注目されている(Beverly & Sherraden 1999; Bialowolski et al. 2019)。資産の蓄積は、経済面・社会面において個人や家族の発達を促すため、ウェルビーイングや経済的な安定性、家族の安定性に寄与する(Scanlon & Page-Adams 2001)。筒井ら(2010)は、20歳から65歳までの4224名の日本人を対象にした調査によって、日本人の幸福度は比較的高い水準にあること、所得が高い人、学歴が高い人、多くの資産をもつ人は幸福度が高いことを実証している。年金シニアプラン総合研究機構が実施した「第7回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」を分析した大風(2022)も、中年男女において、収入が高いことのみならず、預貯金・投資信託・株式・NISAなどの資産形成行動は生きがいを感じやすくする効果があること、資産形成の種類

¹ 大塚(2023)は情報カスケード問題として、2019年6月の「老後資金2000万円問題」を取り上げている。

によって生きがいの関連の仕方が異なること、資産形成行動はメンタルヘルスの良好さと関係していることを明らかにした。

資産形成とウェルビーイングの関連については、資産の量や種類の検討ももとめられている。Burnett et al. (2018) によれば、どの程度の資産があれば十分かつ適切であるかについて研究上の合意はなされておらず、家計へ打撃があった場合に備えて世帯収入6か月分の貯蓄を持つことが、ファイナンシャルプランナーの実務において推奨されている (Scott et al., 2013)。清水 (2025) によれば、老後資金不安の根本要因は老後の生活費や必要資金の具体的な見通しが立たないことにある。同研究は資産の年収倍率指標 (=現在の保有金融資産が年収の何倍か) を提案した上で、この倍率が大きいほどファイナンシャル・ウェルビーイング (FWB) が高いことを明らかにし、FWBの向上には生涯にわたるキャッシュフローの適切なマネジメントが不可欠であると提言する。

資産の流動性の違いによる心的効果の違いを検討した Bialowolski et al. (2024) は、資産を貯蓄のように流動性の高いものと、株や債券、老後への備えといった流動性の低いものに分類し、それぞれの資産と複数のウェルビーイングとの関連を分析している。その結果、いずれの資産形成も総じて抑うつ、孤独感、生活満足度の低下を防止する効果があり、特に流動性の高い資産は「すぐ使える」という特徴を持つため、不安やストレスの低下に効果が見られ、株や債券のような相対的に流動性の低い資産は長期的安心をもたらすことから老後不安の低減に寄与し、生活満足度の低下をより防ぎやすいことなどを明らかにしている。大風 (2024) では、①現役世代の老後に向けた資産形成の中心は男女ともに流動性の高い貯蓄であるが、男性のほうが流動性の低い資産形成をより行っていること、②資産形成においては学歴の効果が認められること、ライフプランセミナーの認知は流動性の低い資産の形成を促進すること、収入水準は資産形成に影響すること、流動性の高い資産を保有していたり、流動性の高い資産と低い資産を両方保有していたりする人のメンタルヘルスは良好である一方、資産形成を行っていない人のメンタルヘルスは低く、特にその関係は男性に強く表れていることを明らかにした。

このように経済的な基盤が人びとの心理に肯定的な影響をもたらすという関係は妥当といえるが、次にはすべての人が資産形成のための資源を持ちうるのかどうか、貯蓄のための効果的な手段を保有するのかどうかが問題になる (Feldman 2018)。たとえば低収入世帯は日々の家計のやりくり自体が難しく、豊かな世帯に比べて資産形成や貯蓄行動は進みにくい (Beverly & Sherraden 1999; Feldman 2018)。Knoll et al. (2012) は、配偶関係と老後に向けた貯蓄行動の関連について、主要な社会経済的状況を統制しても、無配偶者は有配偶者に比べて老後への備えを貯蓄目標としてより重要視しにくいことや確定拠出年金への加入が進んでおらず、特に未婚の女性において老後の計画や貯蓄行動が欠落する傾向にあることを明らかにしている。丸山 (2021) の中年未婚者を対象とした分析も、本来、年金額の上乗せ措置として加入が期待される国民年金加入者よりもむしろ厚生年金加入者において iDeCo が利用されていること、iDeCo の加入者は非加入者に比べて収入や資産面での余裕があり、NISA/つみたて NISA や個人年金制度も併用して、税制上の優遇措置を利用しながら、効率的に老後の備えを行っていることを明らかにした上で、さらなる経済格差の拡大や所得再配分の問題点と低年金者への金融支援の必要性を指

摘する。

以上のように、資産形成は経済的備えであると同時に、心理的な将来不安の緩和にも関与する行動と位置づけられる。ただし、これまでの研究知見は既婚者を含む成人を対象としたものが多く、中高年期の未婚・離別といった配偶関係の違いに着目しつつ、資産形成の方法と老後不安の多面的側面との関連を実証的に検討した研究は十分ではない。こうした課題意識にもとづき、本稿では①どのような人がどのような資産形成を行いやすいのか／行いにくいのか、②資産形成の方法の違いが老後不安の多様な側面（生活全般・健康・住居・孤立など）にどのように関係するかを検討する。

3 使用するデータ・分析対象者・主要変数

使用するデータは公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構による「第6回 独身者（40～60代）の老後生活設計ニーズに関する調査」によって収集されたデータである。本調査は40歳～69歳までの未婚男女、離別男女について、年代別に計それぞれ200名、合計4800名を対象とする調査であり、本稿はそのうち、これまでに何らかの仕事に就いていた4442名を分析対象とする。

資産形成として用いる変数は、「現在、資産形成のために利用しているもの」を問う調査項目である²。選択肢は1 預貯金、2 株式・REIT、3 国債・社債等、4 投資信託・ETF、5 外貨預金、6 その他（不動産投資、仮想通貨、金、FX等）、7 何もしていないであり、1 預貯金を「高流動資産」、2 株式・REIT、3 国債・社債等、4 投資信託・ETF、5 外貨預金、6 その他（不動産投資、仮想通貨、金、FX等）を「低流動資産」として、「高流動資産のみ」「高流動資産&低流動資産の組み合わせ」「低流動資産のみ」「何もない」の4カテゴリーから成る資産形成方法変数を作成し、分析に用いる³。また、不動産保有については、現在の住まいを問う項目を用い、自分の持家あるいは親の持家に住んでいるかを使用する。

老後不安については、老後の生活における不安を問う12項目を使用する。具体的には、「1 老後の生活全般（以下、生活と表記）」「2 ご自身の健康のこと（健康）」「3 生活費のこと（生活費）」「4 安心して住める住宅がないこと（住宅）」「5 家族に先立たれること（家族）」「6 面倒をみてくれる人がいないこと（面倒）」「7 適当な話し相手がないこと（話し相手）」「8 恋人がないこと（恋人）」「9 最期を看取ってくれる人がいないこと（看取り）」「10 ご自身の葬儀やお墓の世話のこと（葬儀・墓）」「11 適当な趣味がないこと（趣味）」「12 雇用が不安定なこと（雇用）」である。これらの領域に対して、それぞれ「1 大変不安を感じる」「2 少し不安を感じる」「3 あまり不安でない」「4 まったく不安を感じない」の選択肢で回答されたものを、不安が高いほど高い点数になるように逆転した変数を

² 本調査項目において「資産形成を何もしていない」と回答している人には金融資産額を回答している102名、金融資産額を回答したくない1203名を含む。

³ 資産の分類は流動性に注目するもの、安全性や収益性に注目するものがある。本研究では、資産形成方法と老後の不安との関係を検討する目的に沿い、資産を「すぐに使用しやすい現在の資産（預貯金）」と「すぐに使用しにくい将来の資産（投資信託・株式など）」という流動性によって分類し、各資産の老後不安という長期的な心的効果を検討したいと考える。

使用する。

先行研究では、生活全般や健康・経済に対する不安を従属変数とするものが多く、またそれらの不安の関連は強いとされている。実際に本調査の老後不安領域間の相関も高い(図表1)。しかしながら、恋人や話し相手といった人間関係や、葬儀や墓など終活に関する不安は質的に異なり、それらの不安に対する資産形成の効果には相違があるのではないかと考える。そこで、本研究は、多様な領域の不安を測定している本調査の特徴を生かし、経済的資源が多様な不安に対してどのように影響を及ぼすのかを詳細に検討してゆく。

図表1 老後生活(12分野)の相関係数

	生活	健康	生活費	住宅	家族	面倒	話し相手	恋人	看取り	葬儀・墓	趣味	雇用
生活	1											
健康	.806**	1										
生活費	.854**	.780**	1									
住宅	.619**	.608**	.653**	1								
家族	.534**	.527**	.539**	.554**	1							
面倒	.702**	.702**	.655**	.629**	.613**	1						
話し相手	.555**	.555**	.535**	.573**	.586**	.716**	1					
恋人	.346**	.337**	.339**	.434**	.445**	.479**	.652**	1				
看取り	.542**	.528**	.504**	.527**	.570**	.703**	.725**	.634**	1			
葬儀・墓	.569**	.555**	.542**	.550**	.575**	.680**	.675**	.559**	.811**	1		
趣味	.411**	.427**	.409**	.524**	.512**	.527**	.688**	.651**	.624**	.601**	1	
雇用	.580**	.537**	.617**	.642**	.562**	.590**	.599**	.534**	.599**	.614**	.619**	1

**相関係数は1%水準で有意(両側)

4 資産形成方法とその規定要因に関する結果

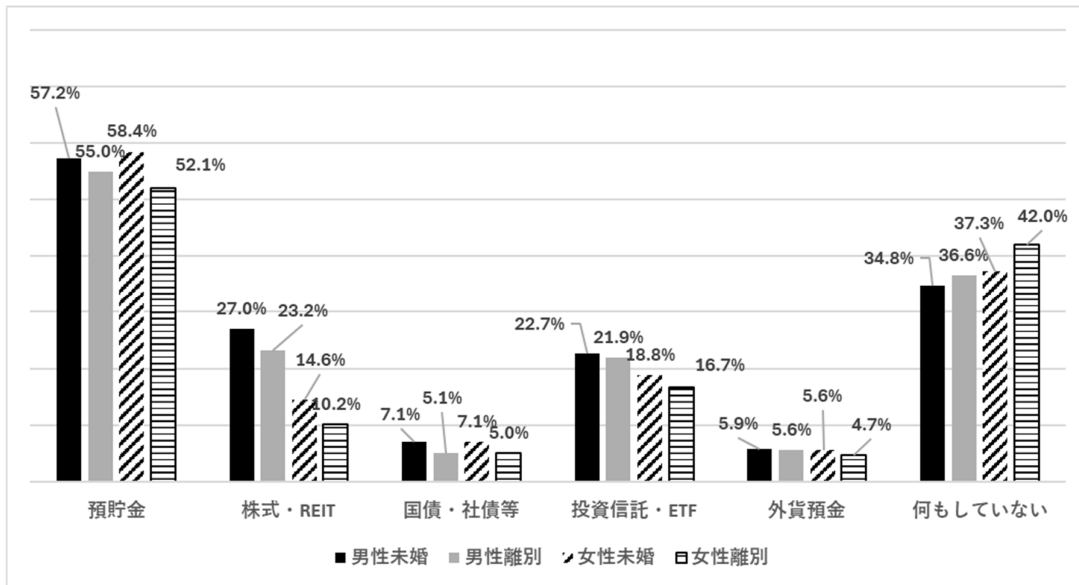
4.1 資産形成方法

本節では、中高年期未婚・離別者における資産形成の実態を、性別・配偶関係別に概観する。先行研究で指摘されてきたジェンダー差や、独身者の経済的脆弱性を記述統計から確認する。

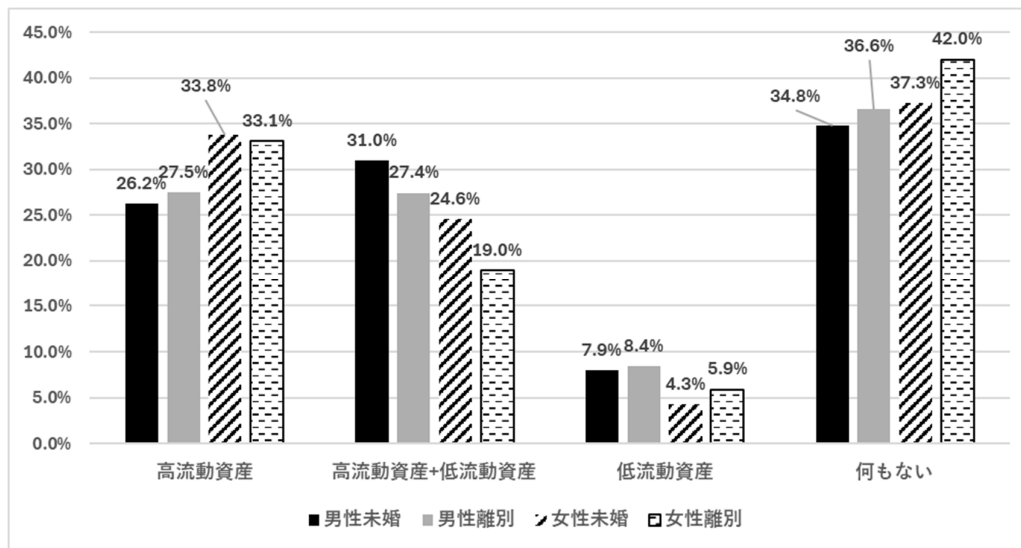
図表2は性別・配偶関係による保有資産を示したものである。いずれの性別・配偶関係においても「預貯金」の構成比が最も大きく50%超と、栗田(2024)に整合的である。男女間では、預貯金の構成比に大きな差異はないが、「株式・REIT、投資信託・ETF」のような流動性が低く、リスクのある資産については男性の構成比が高い傾向が見られる。資産形成を「何もしていない」割合はいずれの性別・配偶関係においても4割前後と高い。この点は、独身者の将来不安が生活設計の困難さと結びつきやすいという先行研究の議論を踏まえると、多面的な老後不安に影響する基礎条件と考えられる。

図表3は先に示した方法に則り、資産形成を分類し、性別・配偶関係別の資産形成方法を示したものである。「高流動資産のみ」による資産形成は女性が男性に比べて多く、「高流動資産と低流動資産を組み合わせた方法」や「低流動資産のみ」については男性が高い。配偶関係では、女性離別者において何もない割合がやや高く「低流動資産」の保有割合がやや低い様子がみられる。

図表2 性別・配偶関係別の資産形成方法



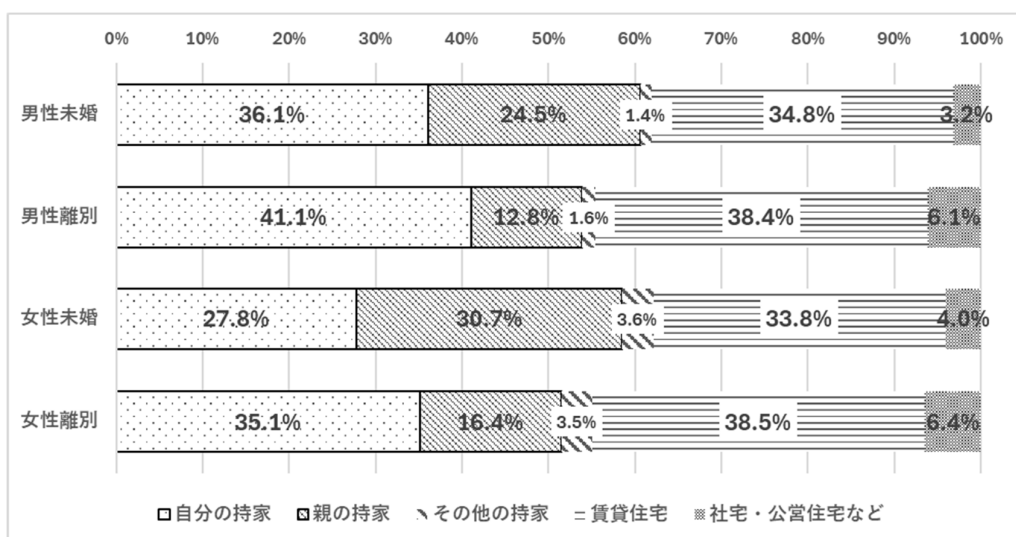
図表3 性別・配偶関係別の分類後の資産形成方法



4.2 持家

図表4は性別・配偶関係別に住まいを集計した結果である。自分の持家については、男性で4割前後、女性は3割前後で、男性の持家率は女性に比べて高い。配偶関係に注目すると、男性離別は4割を超えており、男女ともに離別が未婚を上回る。また、未婚者は離別者よりも親の持家に居住する割合が高い傾向が見られる。未婚者にとって親の持家に住めることは居住の安定性を確保する点においては有利といえる。

図表4 性別・配偶関係別の住まい



4.3 資産形成方法と持家

図表5は、資産形成の方法と持家の関係を分析した結果である。どの性別・配偶関係においても「低流動資産」による資産形成と自分の持家保有には正の関連が見られ、資産形成を「何もしていない」と持家保有率の間には負の関係がある（ χ^2 乗検定において、いずれも $p < .000$ にて有意）。このような関係の背景には、「低流動資産」と持家の保有が同時に両立しやすい生活条件（余裕資金、金融知識、長期計画性など）が存在する可能性がある。一方、資産形成と親の持家の関係については、「高流動資産のみ」や「何もない」と親の持家に住むことに正の関係がある様子は見られるが、統計的な有意差はなかった。

図表5 資産形成方法と持家

		自分の持家	親の持家
男性未婚	高流動資産のみ	39.5%	26.0%
	高流動資産+低流動資産	40.1%	22.9%
	低流動資産	43.5%	15.3%
	何もない	28.4%	26.8%
男性離別	高流動資産のみ	44.3%	11.1%
	高流動資産+低流動資産	48.6%	12.5%
	低流動資産	45.8%	16.7%
	何もない	32.1%	13.4%
女性未婚	高流動資産のみ	26.4%	32.9%
	高流動資産+低流動資産	43.3%	25.2%
	低流動資産	31.9%	29.8%
	何もない	18.3%	32.5%
女性離別	高流動資産のみ	34.4%	19.7%
	高流動資産+低流動資産	49.8%	14.9%
	低流動資産	52.2%	11.9%
	何もない	26.7%	15.1%

4.4 資産形成方法の規定要因

4.4.1 モデルと使用変数の記述統計

本項では、資産形成が「何もない」を含む4つの資産形成パターンそれぞれを従属変数としたロジスティック回帰分析を行い、パターン別の規定要因を明らかにしてゆく。従属変数は、「高流動資産のみの資産形成」「高流動資産および低流動資産による資産形成」「低流動資産のみの資産形成」「何もない」である。全4442サンプルを対象とした分析（全体分析）では投入する変数を4段階に分けて、規定要因の影響程度の変化をみながら、要因間の影響の大きさを比較してゆく。具体的な投入変数について、モデル1は基本属性（年齢・性別・最終学歴・配偶関係・世帯収入）、健康状態（健康状態を「1非常に健康」から「5病気がち、療養中」の5段階で尋ねた問いを用いて、値が大きくなるほど良好になるよう反転）、自分および親の持家居住である。モデル2は仕事要因としてこれまでの主たるキャリアを加えて分析する。モデル3は家族要因として同別居状況、自分が生計維持者、親からの経済支援が期待できるかどうかを加え、モデル4は将来予測要因として、将来の就業、結婚希望および生活設計を実施しているかどうかを投入する。全体の分析結果を示したのちに男女別にサンプルを分割した分析結果を示す。

図表6は多変量解析に使用する変数の記述統計である⁴。モデル1に投入する基本属性について、年齢は5歳ごとに男女ともほぼ同数が分布しているが、分析対象としてキャリア無就業を除いているため、65歳以上はやや少ない。配偶関係についてもサンプルを選択した関係で、未婚者の割合がやや低い。最終学歴は、大学・大学院卒、中・高・その他がともに約40%であるが、男性は大学・大学院卒の割合が、女性は中・高・その他の割合が相対的に高く、男女の学歴構成は異なる。世帯収入では、全体で200-400万円の割合が約30%と最も多く、200万円未満が24%と続く。男性のほうが女性に比べて世帯年収が高い傾向が見て取れる⁵。健康状態については5点満点で3.6点と良好な傾向で男女間の差異もない。自分名義持家は全体で35.1%だが、男性のほうが高い。一方、親名義持家については全体21.0%だが、女性のほうが高くなっている。

モデル2で投入する主たるキャリアについては、経営者・正社員キャリアが65.4%だが、男女差が大きい。女性の主たるキャリアは非正規が約4割と最も高くなっている。モデル3の家族要因について、居住状況では単独世帯が約55%と最も高く、両親・父のみ・母のみを合計した親同居は約3割、きょうだいや子どもといった親以外とのみの同居は約15%である。自分中心の生計は65.4%であり、男性が女性に比べて高い。親からの経済支援については、父親が約9%、母親が約14%であり、女性のほうがやや男性を上回る。モデル4に加える将来予測要因について、就業希望では可能な限り働きたいが7割近く、男女差はあまりない。結婚希望について、女性は結婚するつもりがない割合が高く、男性のほうがより結婚願望が強い。生活設計については全体の65.4%が行っておら

⁴ 変数横に※を記した「老後経済支援者」「生計維持手段」は後述する老後不安を従属変数とする多変量解析で使用する変数である。2つの多変量解析は共通する変数が多いことから一表にまとめている。

⁵ 世帯年収については、「調査対象者の世帯の仕事以外の収入も含めた世帯全体の過去1年間の税込み収入」を尋ねる質問を使用している。質問票の詳細は仲津留（2026）を参照のこと。本分析においては、年収カテゴリーを6つに分類したものを投入する。

ず、男性のほうが女性よりもやや高い。

後述する資産形成と老後不安に関する多変量解析で使用する老後経済支援者のいない割合は7割で、男性は女性以上に高い。老後に予想される生計維持手段は、公的年金が55.9%と最も高く女性のほうがやや高い。公的年金に続いて仕事収入を想定する割合も3割を超え、男女差はあまりない。不動産や利息・配当金収入などの資産収入については男性が高いが、個人年金保険については女性が男性よりも高い傾向がある。

図表6 多変量解析に使用する変数の記述統計

	サンプル サイズ	年齢						最終学歴			
		40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	中・高・ その他	短大・専 修	大学・大 学院	
男性	2212	16.6%	16.9%	17.1%	16.9%	16.8%	15.7%	39.1%	12.7%	48.2%	
女性	2230	16.8%	16.8%	17.3%	17.2%	17.1%	14.9%	39.9%	31.0%	29.1%	
計	4442	16.7%	16.8%	17.2%	17.0%	17.0%	15.3%	39.5%	21.9%	38.6%	
	サンプル サイズ	配偶関係		世帯収入						自分名義 持家	親名義持 家
		未婚	離別	なし	0-200万 円	200-400 万円	400-600 万円	600-1000 万円	1000万円 以上		
男性	2212	48.4%	51.6%	6.7%	20.3%	26.7%	20.8%	18.9%	6.5%	38.7%	18.4%
女性	2230	49.2%	50.8%	7.5%	27.8%	33.5%	16.6%	11.1%	3.5%	31.5%	23.5%
計	4442	48.8%	51.2%	7.1%	24.0%	30.1%	18.7%	15.0%	5.0%	35.1%	21.0%
	サンプル サイズ	健康状態				生計					
		平均値	標準偏差	最小値	最大値	自分中心 生計					
男性	2212	3.62	0.97	1.00	5.00	86.7%					
女性	2230	3.58	0.95	1.00	5.00	75.8%					
合計	4442	3.60	0.96	1.00	5.00	81.2%					
	サンプル サイズ	主たるキャリア			居住状況				親からの支援		
		正社員 キャリア	非正規 キャリア	自営カ リア	同居両親	同居父の み	同居母の み	親以外と のみ同居	単独世帯	父親から 経済支援	母から経 済支援
男性	2212	75.7%	12.3%	12.1%	12.7%	2.5%	14.8%	7.4%	62.7%	7.9%	11.8%
女性	2230	55.1%	37.5%	7.4%	13.8%	2.3%	14.1%	23.1%	46.6%	9.9%	15.4%
計	4442	65.4%	24.9%	9.7%	13.2%	2.4%	14.5%	15.3%	54.6%	8.9%	13.6%
	サンプル サイズ	就業希望					結婚希望				
		可能な限 り働き続 けたい	年齢まで 働き、そ の後引退	年齢前に やめて、 引退	定年まで 働き、そ の後引退	仕事を辞 めて、引 退	結婚相手 が決まっ ている	がいたら 結婚した い	結婚する つもりは ない	わからな い	
男性	2212	67.3%	15.2%	5.4%	5.0%	5.4%	2.6%	22.2%	53.0%	22.2%	
女性	2230	69.1%	15.0%	4.3%	4.9%	4.7%	1.7%	11.3%	68.8%	18.1%	
計	4442	68.2%	15.1%	4.8%	5.0%	5.1%	2.2%	16.7%	61.0%	20.1%	
	サンプル サイズ	老後経済 支援者※	生計維持手段※						生活設計		
		なし	仕事収入	公的年金	企業年金	個人年金	不動産収 入	利息・配 当金収入	なし		
男性	2212	74.9%	30.8%	53.6%	11.6%	16.4%	4.0%	15.8%	68.0%		
女性	2230	63.2%	32.6%	58.2%	8.9%	19.5%	2.4%	8.8%	62.7%		
計	4442	69.0%	31.7%	55.9%	10.3%	17.9%	3.2%	12.3%	65.4%		
※後述する老後不安を従属変数とする多変量解析で使用。											
健康状態	サンプル サイズ	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の95%信頼区 間		最小値	最大値			
					下限	上限					
男性	2212	3.62	0.97	0.02	3.58	3.66	1.00	5.00			
女性	2230	3.58	0.95	0.02	3.54	3.62	1.00	5.00			
合計	4442	3.60	0.96	0.01	3.57	3.62	1.00	5.00			

4.4.2 「高流動資産のみ」の資産形成の結果

図表7は、「高流動資産のみ」で資産形成をしている場合の規定要因を分析した結果である。

図表7 高流動資産のみの資産形成：全体

		モデル1				モデル2				モデル3				モデル4			
		B	標準誤差		Exp(B)	B	標準誤差		Exp(B)	B	標準誤差	有意確率	Exp(B)	B	標準誤差	有意確率	Exp(B)
定数		-0.890	0.178 ***		0.411	-0.828	0.181 ***		0.437	-0.923	0.211 ***		0.397	-1.194	0.236 ***		0.303
年齢 (Ref:65-69)	40-44歳	-0.357	0.120 **		0.700	-0.344	0.121 **		0.709	-0.423	0.125 **		0.655	-0.461	0.133 **		0.631
	45-49歳	-0.459	0.121 ***		0.632	-0.440	0.122 ***		0.644	-0.500	0.125 ***		0.607	-0.532	0.131 ***		0.587
	50-54歳	-0.216	0.117 †		0.805	-0.204	0.117 †		0.816	-0.254	0.119 *		0.776	-0.297	0.126 *		0.743
	55-59歳	-0.296	0.117 **		0.744	-0.285	0.117 *		0.752	-0.315	0.118 **		0.730	-0.364	0.124 **		0.695
	60-64歳	-0.226	0.115 *		0.798	-0.221	0.115 †		0.802	-0.227	0.115 †		0.797	-0.262	0.118 *		0.769
性別	男性	-0.296	0.069 ***		0.743	-0.324	0.071 ***		0.723	-0.327	0.074 ***		0.721	-0.315	0.075 ***		0.730
最終学歴 (Ref:大卒)	中・高・その他	0.251	0.079 **		1.285	0.260	0.079 **		1.297	0.287	0.080 ***		1.333	0.280	0.080 ***		1.323
	短大・専修	0.203	0.092 *		1.225	0.207	0.092 *		1.230	0.220	0.093 *		1.247	0.212	0.093 *		1.237
配偶関係	未婚	-0.004	0.067		0.996	0.002	0.068		1.002	-0.009	0.070		0.991	0.009	0.071		1.009
世帯収入 (Ref:200-400未満)	なし	-0.453	0.146 **		0.636	-0.459	0.146 **		0.632	-0.439	0.146 **		0.645	-0.418	0.148 **		0.658
	0超-200万円未満	-0.307	0.092 **		0.736	-0.291	0.092 **		0.747	-0.284	0.092 **		0.753	-0.269	0.093 **		0.764
	400-600万円未満	0.036	0.096		1.037	0.016	0.097		1.016	0.016	0.097		1.016	0.013	0.097		1.013
	600-1000万円未満	0.050	0.106		1.052	0.022	0.107		1.022	0.019	0.107		1.020	0.013	0.108		1.013
	1000万円以上	-0.440	0.176 *		0.644	-0.469	0.177 **		0.625	-0.471	0.178 **		0.624	-0.480	0.179 **		0.619
健康状態		0.098	0.036 **		1.103	0.095	0.036 **		1.100	0.094	0.037 *		1.098	0.088	0.037 *		1.092
持家(Ref:持家以外)	自分名義持家	0.061	0.078		1.063	0.054	0.078		1.056	0.054	0.080		1.056	0.070	0.080		1.072
	親名義持家	0.202	0.090 *		1.224	0.207	0.090 *		1.230	0.163	0.118		1.177	0.166	0.118		1.181
キャリア (Ref:経営者・正社)	非正規					-0.160	0.086 †		0.852	-0.170	0.087 †		0.843	-0.185	0.088 *		0.831
	自営					-0.122	0.116		0.885	-0.127	0.116		0.881	-0.134	0.117		0.875
居住状況 (Ref:単独)	両親同居									0.105	0.149		1.110	0.100	0.149 †		1.106
	父親のみ同居									-0.375	0.256		0.687	-0.384	0.257		0.681
	母親のみ同居									-0.001	0.119		0.999	-0.007	0.119		0.993
	親以外のみ同居									-0.044	0.104		0.957	-0.053	0.105		0.948
生計	自分中心									0.099	0.111		1.104	0.094	0.112		1.099
親からの支援	父から経済支援									0.281	0.129 *		1.324	0.283	0.129 *		1.327
	母から経済支援									0.247	0.103 *		1.280	0.252	0.103 *		1.287
就業希望 (Ref:定年前に引退)	可能な限り													0.146	0.096		1.158
	年金受給年齢まで													0.147	0.127		1.158
	年金受給年齢前													-0.123	0.195		0.884
	定年まで													0.268	0.179		1.308
結婚希望 (Ref:わからない)	結婚決定													0.318	0.234		1.374
	結婚したい													0.037	0.115		1.037
	結婚希望なし													0.177	0.090 †		1.193
生活設計	なし													0.125	0.074 †		1.133
-2対数尤度		5353.888				5349.852				5336.376				5323.274			
Cox-Snell R2乗		0.019				0.020				0.023				0.026			
Nagelkerke R2乗		0.028				0.029				0.033				0.037			

***p<.000, **p<.01, *p<.05, †p<.10

属性要因を投入したモデル1において、「高流動資産のみ」の資産形成に対して正の関連のある変数は、「中・高・その他」「短大・専修」、「健康状態」、「親名義の持家」である。負の関連が見られるのは、「年齢（50-54歳のみに有意傾向）」、「男性」、「世帯収入なし」あるいは「200万円未満」と「1000万円以上」である。仕事要因を追加投入したモデル2では、モデル1と同様の傾向に加え、「非正規であること」が負の有意傾向を示している。

家族要因を加えたモデル3では、これまでのモデルと比較して、「父や母から経済支援を受けられること」に正の効果が見られ、代わりに「親の持家」の効果が減少している。親の持家に同居することは親からの経済支援の代理変数になっているものと推察でき、親から明確に経済支援を受けられることが本人の家計を助け「高流動資産」を形成しやすい様子が見える。最後に将来予測要因を加えたモデル4では、モデル3までの結果に加え、「キャリア非正規」の効果が高まった。

つまり、「高流動資産のみ」の資産形成を行いやすいのは、65歳以上、女性、学歴が大卒・大学院卒より下位、健康状態が良好、親から経済支援を受けられること、世帯収入は200-1000万円未満である⁶。本分析における「高流動資産」は預貯金のため、定期的に積み立てを継続することで、年齢の上昇にともない増加する。一般的に女性は収入水準が低いために、生活費の補填などの目的で流動性の高い資産を選好する可能性やリスク性資産を避ける傾向があると考えられる。また学歴は金融リテラシーと関連するため、低学歴の場合には将来のリターンをイメージしにくいことから流動性の高い資産を求めるのかもしれない。さらに健康状態が良いことは余剰資金を生みやすく、親から経済支援を受けられれば貯蓄は増えるだろう。世帯収入が多ければ預貯金額は増加するが、世帯収入が1000万円以上と高い場合はさらに余剰資金が生まれることから、高流動資産のみの資産形成行動にとどまらないものと推察できる。

図表8は「高流動資産のみ」の資産形成を行っている場合の規定要因を男女別に検討した結果である。まず男性において正の関連があるのは、「中・高・その他」、「短大・高専」である。一方、負の関連が生じているのは「45-49歳」、「世帯収入200万円未満」、「非正規」である。つまり、男性において「高流動資産のみ」の資産形成は、学歴が大卒・大学院卒より下位で行われやすく、45-49歳、世帯収入が200万円未満、キャリア非正規では行われにくいといえる。

女性において正の関連があるのは、「世帯収入400-600万円未満」、「600-1000万円未満」、「1000万円以上」、「自分名義の持家」、「自分中心の生計」、「結婚したい」、「結婚希望なし」である。一方、負の関連は、「中・高・その他」、「短大・専修」、「世帯収入なし」、「200万円未満」、「親以外のみ同居」、「可能な限り働きたい」、「生活設計なし」に生じている。つまり、女性において「高流動資産のみ」の資産形成は、大学・大学院卒、世帯収入が400万円以上、自分名義持家、結婚願望があること、結婚願望がない人に生じやすく、世帯収入が200万円未満、親以外のみ同居、可能な限り働きたい、生活設計なしの場

⁶ 世帯収入がない場合に預貯金による資産形成が行われていないという効果については、同設問で資産が何もないと回答している人のうち102名は金融資産額を回答していることから、世帯収入も預貯金もないのではなく、預貯金を資産形成とみなしているかどうかによる回答の違いと解釈している。ただしこの点は推測の域を出ないため、結果の解釈には一定の留保が必要と考える。

合に行われにくい。

以上のように「高流動資産」のみの資産形成の規定要因については男女間に差異がある。男女それぞれにおいて、配偶関係間の差異は小さい。男女間の特徴的な差異として、男性では学歴や世帯収入の低さ、非正規キャリアといった不利な家計状態が預貯金のような流動性の高い資産形成に対して負の影響を及ぼす。これに対して、女性は学歴・世帯収入や持家・自身が生計主体者であることなど、女性自身の高い経済力が高流動資産を高めることに寄与している。このように男女間で独立変数の逆の効果が見られるのは、学歴や収入における分布のジェンダー差異が存在するからではないだろうか。一般的に女性は学歴や収入が低い場合、預貯金を積み重ねられるには相応の社会的地位が必要になる。対して男性は一定水準以上の学歴や収入があるため、高学歴・高収入であれば女性以上に余剰資金があり、高流動資産のみにとどまらない資産形成の多様化につながりやすいと考えられる。

女性では結婚に対して明確な意思を持つことは、結婚するにしても、しないにしても「高流動資産」による資産形成を高めるのは、前者では婚姻生活を成立させるための資金として、後者では単身で生きていくための原資として預貯金が重視されていることを表すものと考えられる。親以外とのみ同居という子どもや兄弟姉妹との同居や将来の就業希望として可能な限り働きたいと考える場合に負の関連が見られるのは、家計面のゆとりがない現状から資産形成が不十分になる未来を予想していることの表れかもしれない。

図表8 高流動資産のみの資産形成：男女別

		男性				女性			
		B	標準誤差		Exp(B)	B	標準誤差		Exp(B)
定数		-1.537	0.348 ***		0.215	-1.427	0.413 **		0.240
年齢(Ref:65-69)	40-44歳	-0.323	0.196		0.724	-0.269	0.242		0.764
	45-49歳	-0.426	0.194 *		0.653	-0.071	0.228		0.931
	50-54歳	-0.128	0.185		0.880	-0.360	0.227		0.698
	55-59歳	-0.229	0.184		0.795	-0.090	0.209		0.914
	60-64歳	-0.078	0.175		0.925	0.370	0.190 †		1.447
最終学歴(Ref:大卒)	中・高・その他	0.356	0.110 **		1.428	-0.611	0.146 ***		0.543
	短大・専修	0.418	0.155 **		1.519	-0.350	0.142 *		0.705
配偶関係	未婚	0.036	0.103		1.037	0.244	0.126 †		1.276
世帯収入(Ref:200-400未満)	なし	-0.429	0.226 †		0.651	-0.828	0.303 **		0.437
	0超-200万円未満	-0.339	0.151 *		0.712	-0.704	0.169 ***		0.494
	400-600万円未満	0.016	0.140		1.016	0.621	0.163 ***		1.860
	600-1000万円未満	-0.026	0.150		0.974	0.867	0.186 ***		2.380
	1000万円以上	-0.396	0.233 †		0.673	1.226	0.280 ***		3.409
健康状態		0.059	0.054		1.060	-0.003	0.065		0.997
持家(Ref:持家以外)	自分名義持家	0.219	0.115 †		1.245	0.558	0.138 ***		1.747
	親名義持家	0.121	0.186		1.129	0.369	0.212 †		1.447
キャリア(Ref:経営者・正社員)	非正規	-0.395	0.177 *		0.674	-0.169	0.139		0.844
	自営	-0.146	0.154		0.864	0.037	0.209		1.037
居住状況(Ref:単独)	両親同居	0.019	0.215		1.019	-0.393	0.278		0.675
	父親のみ同居	-0.140	0.352		0.869	0.239	0.434		1.269
	母親のみ同居	0.011	0.165		1.012	-0.372	0.219 †		0.689
	親以外のみ同居	-0.100	0.197		0.905	-0.599	0.172 **		0.549
生計	自分中心	0.055	0.189		1.057	0.557	0.194 **		1.745
親からの支援	父から経済支援	0.131	0.199		1.140	0.415	0.221 †		1.515
	母から経済支援	0.190	0.163		1.209	-0.040	0.184		0.961
就業希望(Ref:定年前に引退)	可能な限り	0.273	0.143 †		1.314	-0.326	0.162 *		0.722
	年金受給年齢まで	0.197	0.188		1.218	0.261	0.207		1.298
	年金受給年齢前	-0.043	0.277		0.958	0.139	0.314		1.149
	定年まで	0.159	0.273		1.173	-0.293	0.322		0.746
結婚希望(Ref:わからない)	結婚決定	0.229	0.312		1.257	0.532	0.493		1.703
	結婚したい	-0.110	0.151		0.896	0.741	0.240 **		2.098
	結婚希望なし	0.040	0.126		1.041	0.610	0.186 **		1.841
生活設計	なし	0.148	0.110		1.159	-1.051	0.121 ***		0.350
-2対数尤度		2520.456				1913.534			
Cox-Snell R2乗		0.025				0.172			
Nagelkerke R2乗		0.036				0.266			

***p<.000, **p<.01, *p<.05, †p<.10

4.4.3 「高流動資産および低流動資産の組み合わせ」による資産形成の結果

図表9は「高流動資産および低流動資産」によって資産形成をしている場合の規定要因を分析した結果である。「高流動資産」の規定要因の分析と同様に、モデル1から順次、結果を示す。まずモデル1において、正の関連のある変数は「男性」「未婚」「400-600万円」「600-1000万円」「1000万円以上」「自分名義持家」である。負の関連のあるものは「40-44歳」「45-49歳」「50-54歳」「55-59歳」、「中・高・その他」「短大・専修」、「世帯収入なし」「200万円未満」である。続いてモデル2では、モデル1で見た結果はほぼ維持されるが、「男性」の効果が小さくなり、代わりに「キャリア非正規」が負の影響を示す。家族要因を投入したモデル3においても、モデル1・2の効果をほぼ維持しながら、「親名義持家」の効果が高まっている。さらに居住状況として、「親や親以外との同居」が負の影響を及ぼし、「自分中心の生計」、「父からの経済支援」は正の関連を示す。

最後のモデル4では、「年齢」の効果が小さくなり、「可能な限り働きたい」は負の関連を、「結婚が決定」「結婚したい」「結婚するつもりはない」は正の関連となっている。つまり、「高流動資産&低流動資産」による資産形成は、学歴が高く、未婚、世帯収入が高く、自分名義の持家を保有し、単独世帯で、自分中心に生計を維持し、父親から経済支援を受けられ、結婚が決定している、結婚したい、結婚希望がない人である。このような結果は、「高流動資産と低流動資産の双方による資産形成」を行うには資金的・時間的余裕が必要であることを示すものと考えられる。また「高流動資産」の規定要因分析と同様に、将来のライフコースとして結婚に対する意思が明確であるかどうかという点も重要になる。可能な限り働きたい場合に負の効果が見られるのは、可能な限り働かざるを得ないと考えている人が現状の経済状態に余裕がなく、複合的な資産形成をしにくい状況にあることを表すものといえよう。

図表 9 : 高流動資産&低流動資産による資産形成 : 全体

		モデル 1			モデル 2			モデル 3			モデル 4		
		B	差	Exp(B)	B	差	Exp(B)	B	差	率	Exp(B)	B	差
定数		-0.887	0.195 ***	0.412	-0.768	0.198 ***	0.464	-1.157	0.238 ***	0.314	-1.095	0.273 ***	0.334
年齢 (Ref:65-69)	40-44歳	-0.542	0.135 ***	0.582	-0.518	0.136 ***	0.596	-0.522	0.141 ***	0.594	-0.108	0.155	0.897
	45-49歳	-0.266	0.131 *	0.767	-0.232	0.132 †	0.793	-0.250	0.135 †	0.779	0.121	0.148	1.129
	50-54歳	-0.576	0.133 ***	0.562	-0.552	0.133 ***	0.576	-0.557	0.136 ***	0.573	-0.249	0.149 †	0.780
	55-59歳	-0.351	0.129 **	0.704	-0.329	0.129 **	0.719	-0.360	0.131 **	0.698	-0.086	0.142	0.917
	60-64歳	0.041	0.123	1.042	0.049	0.123	1.050	0.062	0.124	1.064	0.251	0.131 †	1.285
性別	男性	0.154	0.077 *	1.166	0.101	0.079	1.107	0.023	0.081	1.023	0.117	0.086	1.125
最終学歴 (Ref:大卒)	中・高・その他	-0.889	0.087 ***	0.411	-0.869	0.088 ***	0.419	-0.805	0.089 ***	0.447	-0.802	0.091 ***	0.449
	短大・専修	-0.427	0.099 ***	0.653	-0.418	0.099 ***	0.659	-0.348	0.100 **	0.706	-0.313	0.103 **	0.731
配偶関係	未婚	0.292	0.075 ***	1.340	0.303	0.075 ***	1.354	0.285	0.078 **	1.330	0.282	0.081 ***	1.325
世帯収入 (Ref:200-400未満)	なし	-0.611	0.185 **	0.543	-0.629	0.185 **	0.533	-0.597	0.186 **	0.551	-0.604	0.196 **	0.547
	0超-200万円未満	-0.415	0.111 ***	0.660	-0.390	0.112 ***	0.677	-0.411	0.113 ***	0.663	-0.495	0.118 ***	0.610
	400-600万円未満	0.479	0.105 ***	1.614	0.438	0.106 ***	1.549	0.484	0.107 ***	1.623	0.491	0.111 ***	1.634
	600-1000万円未満	0.885	0.110 ***	2.424	0.828	0.112 ***	2.289	0.904	0.114 ***	2.468	0.864	0.118 ***	2.372
	1000万円以上	1.015	0.158 ***	2.758	0.957	0.159 ***	2.604	1.095	0.162 ***	2.990	1.146	0.168 ***	3.144
健康状態		-0.025	0.040	0.976	-0.030	0.040	0.971	-0.047	0.041	0.954	-0.012	0.042	0.988
持家(Ref:持家以外)	自分名義持家	0.392	0.084 ***	1.479	0.378	0.084 ***	1.460	0.454	0.087 ***	1.574	0.368	0.090 ***	1.445
	親名義持家	-0.015	0.103	0.985	-0.003	0.104	0.997	0.280	0.138 *	1.323	0.242	0.143 †	1.274
キャリア (Ref:経営者・正社員)	非正規				-0.339	0.105 **	0.712	-0.266	0.107 *	0.766	-0.194	0.110 †	0.823
	自営				-0.172	0.125	0.842	-0.144	0.126	0.866	-0.057	0.131	0.945
居住状況 (Ref:単独)	両親同居							-0.422	0.168 *	0.656	-0.392	0.176 *	0.676
	父親のみ同居							0.052	0.259	1.054	0.049	0.271	1.050
	母親のみ同居							-0.234	0.130 †	0.791	-0.207	0.135	0.813
	親以外のみ同居							-0.509	0.126 ***	0.601	-0.570	0.130 ***	0.565
生計	自分中心						0.495	0.134 ***	1.640	0.446	0.139 **	1.562	
親からの支援	父から経済支援							0.521	0.140 ***	1.685	0.489	0.146 **	1.630
	母から経済支援							0.208	0.118 †	1.231	0.144	0.123	1.155
就業希望 (Ref:定年前に引退)	可能な限り										-0.489	0.108 ***	0.613
	年金受給年齢まで										0.057	0.138	1.059
	年金受給年齢前										0.102	0.196	1.108
	定年まで										-0.331	0.205	0.718
結婚希望 (Ref:わからない)	結婚決定										0.892	0.258 **	2.439
	結婚したい										0.637	0.133 ***	1.890
	結婚希望なし										0.474	0.112 ***	1.607
生活設計	なし									-0.965	0.080 ***	0.381	
-2対数尤度		4553.528			4542.040			557.910			4239.507		
Cox-Snell R2乗		0.103			0.106			0.118			0.165		
Nagelkerke R2乗		0.152			0.156			0.174			0.243		

***p<.000, **p<.01, *p<.05, †p<.10

図表 10 は「高流動資産と低流動資産」による資産形成を行っている場合の規定要因を男女別に検討した結果である。まず男性において正の関連があるのは、「未婚」、「400-600万円」、「600-1000万円」、「1000万円以上」、「父からの経済支援」、「母からの経済支援」、「結婚決定」、「結婚したい」、「結婚希望なし」である。負の関連は、「中・高・その他」、「200万円未満」、「親以外とのみ同居」、「可能な限り働きたい」、「生活設計なし」である。つまり、男性においてこのような資産形成を行っているのは、世帯収入が400万円以上、父親や母親から経済支援を受けられ、結婚の有無について明確な希望を持っている人である。また学歴が高卒以下、世帯収入が200万円未満、親以外、すなわちきょうだいや子どもとのみ同居、可能な限り働きたいと考えている、生活設計をしていない人は「高流動資

産と低流動資産を組み合わせた資産形成」は行いにくい。男性においては全体の分析と同様の傾向が見られる。

女性において正の関連があるのは、「世帯収入 400-600 万円」、「600-1000 万円」、「1000 万円以上」、「自分名義の持家」、「自分中心の生計」、「結婚したい」、「結婚希望なし」である。一方、負の関連は、「中・高・その他」、「短大・専修」、「世帯収入なし」、「200 万円未満」、「親以外のみ同居」、「可能な限り働きたい」、「生活設計なし」に生じている。つまり、女性においても全体や男性と同様に、経済的基盤があることで「高流動資産と低流動資産」による資産形成が促されるといえる。また、結婚について明確な意思を持っていることも、将来の目標を持つという点で資産形成を促すドライバーとなり得るだろう。男女ともに未婚者が離別者よりもこのような資産形成を行いやすいのは（女性は弱い関連）、家族資源に乏しい未婚者のほうが将来への備えをより重視し多様な資産形成を行っている可能性や、あるいは逆に子どものいない未婚者のほうが資産形成の自由度が高いことを示唆するものと考え⁷。

⁷ 本調査の男性未婚者で子どもと同居している割合は 1.2%、女性未婚者は 2.0%である。

図表 10 高流動資産&低流動資産による資産形成：男女別

		男性			女性		
		B	標準誤差	Exp(B)	B	標準誤差	Exp(B)
定数		-0.747	0.366 *	0.474	-1.427	0.413 **	0.240
年齢 (Ref:65-69)	40-44歳	-0.002	0.206	0.998	-0.269	0.242	0.764
	45-49歳	0.268	0.199	1.308	-0.071	0.228	0.931
	50-54歳	-0.151	0.200	0.860	-0.360	0.227	0.698
	55-59歳	-0.133	0.195	0.875	-0.090	0.209	0.914
	60-64歳	0.112	0.182	1.118	0.370	0.190 †	1.447
最終学歴 (Ref:大卒)	中・高・その他	-0.950	0.120 ***	0.387	-0.611	0.146 ***	0.543
	短大・専修	-0.244	0.162	0.783	-0.350	0.142 **	0.705
配偶関係	未婚	0.309	0.109 **	1.362	0.244	0.126 †	1.276
世帯収入 (Ref:200-400未満)	なし	-0.415	0.265	0.660	-0.828	0.303 **	0.437
	0超-200万円未満	-0.336	0.169 *	0.714	-0.704	0.169 ***	0.494
	400-600万円未満	0.390	0.154 *	1.477	0.621	0.163 ***	1.860
	600-1000万円未満	0.849	0.157 ***	2.337	0.867	0.186 ***	2.380
	1000万円以上	1.106	0.216 ***	3.022	1.226	0.280 ***	3.409
健康状態		-0.025	0.057	0.975	-0.003	0.065	0.997
持家(Ref:持家以外)	自分名義持家	0.217	0.121 †	1.242	0.558	0.138 ***	1.747
	親名義持家	0.148	0.200	1.160	0.369	0.212 †	1.447
キャリア (Ref:経営者・正社員)	非正規	-0.216	0.193	0.805	-0.169	0.139	0.844
	自営	-0.104	0.168	0.901	0.037	0.209	1.037
居住状況 (Ref:単独)	両親同居	-0.361	0.232	0.697	-0.393	0.278	0.675
	父親のみ同居	-0.038	0.350	0.963	0.239	0.434	1.269
	母親のみ同居	-0.092	0.174	0.912	-0.372	0.219 †	0.689
	親以外のみ同居	-0.635	0.218 **	0.530	-0.599	0.172 **	0.549
生計	自分中心	0.382	0.208 †	1.465	0.557	0.194 **	1.745
親からの支援	父から経済支援	0.568	0.201 **	1.765	0.415	0.221 †	1.515
	母から経済支援	0.335	0.170 *	1.398	-0.040	0.184	0.961
就業希望 (Ref:定年前に引退)	可能な限り	-0.617	0.146 ***	0.539	-0.326	0.162 *	0.722
	年金受給年齢まで	-0.095	0.188	0.909	0.261	0.207	1.298
	年金受給年齢前	0.050	0.257	1.052	0.139	0.314	1.149
	定年まで	-0.384	0.272	0.681	-0.293	0.322	0.746
結婚希望 (Ref:わからない)	結婚決定	1.160	0.320 ***	3.191	0.532	0.493	1.703
	結婚したい	0.601	0.161 ***	1.824	0.741	0.240 **	2.098
	結婚希望なし	0.375	0.143 **	1.455	0.610	0.186 **	1.841
生活設計	なし	-0.868	0.110 ***	0.420	-1.051	0.121 ***	0.350
-2対数尤度	2285.728			1913.534			
Cox-Snell R2乗	0.160			0.172			
Nagelkerke R2乗	0.228			0.266			

***p<.000, **p<.01, *p<.05, †p<.10

4.4.4 「低流動資産のみ」による資産形成の結果

図表 11 は「低流動資産のみ」によって資産形成をしている場合の規定要因を分析した結果である。まずモデル 1 において、正の関連のある変数は「男性」「自分名義持家」である。モデル 2 で検討したキャリアの効果はなく、モデル 3 の家族要因については、「母親とのみ同居」をしていると負の関連が見られる。モデル 4 では、「母親とのみ同居」の効果が弱まり、将来予測要因として、「可能な限り働きたい」「生活設計なし」は負の関連を、「結婚したい」は正の関連となっている。つまり、「低流動資産」による資産形成は、男性、自分名義持家、結婚したい人で行われやすく、可能な限り働きたい、生活設計を行っていない場合には行われにくい。「低流動資産のみ」の規定要因として世帯年収の効果がほとんど見られないのは、現在の資金的な余裕よりも、リスク性資産に対する心理的な許容度や、将来を見据えた資産形成に対するより大きな成果を期待することの表れと解釈できるのではないだろうか。

図表 11 低流動資産のみによる資産形成：全体

		モデル 1			モデル 2			モデル 3			モデル 4		
		B	標準誤差	Exp(B)	B	標準誤差	Exp(B)	B	標準誤差	Exp(B)	B	標準誤差	Exp(B)
定数		-2.924	0.330 ***	0.054	-2.892	0.336 ***	0.055	-3.043	0.398 **	0.048	-3.032	0.444 ***	0.048
年齢 (Ref:65-69)	40-44歳	-0.334	0.229	0.716	-0.333	0.230	0.717	-0.271	0.237	0.763	-0.074	0.253	0.929
	45-49歳	-0.115	0.217	0.892	-0.111	0.218	0.895	-0.048	0.221	0.953	0.123	0.235	1.131
	50-54歳	-0.250	0.219	0.779	-0.247	0.220	0.781	-0.199	0.223	0.820	-0.011	0.237	0.989
	55-59歳	0.054	0.204	1.056	0.057	0.205	1.059	0.087	0.207	1.091	0.267	0.220	1.306
	60-64歳	-0.101	0.209	0.904	-0.101	0.209	0.904	-0.087	0.209	0.917	0.045	0.216	1.046
性別	男性	0.452	0.130 **	1.572	0.442	0.134 **	1.556	0.460	0.139 **	1.584	0.450	0.142 **	1.568
最終学歴 (Ref:大卒)	中・高・その他	-0.279	0.146 †	0.756	-0.276	0.146 †	0.759	-0.269	0.147 †	0.764	-0.235	0.148	0.791
	短大・専修	0.084	0.165	1.087	0.086	0.165	1.090	0.101	0.166	1.106	0.117	0.167	1.124
配偶関係	未婚	-0.146	0.124	0.864	-0.142	0.125	0.867	-0.081	0.128	0.922	-0.091	0.130	0.913
世帯収入 (Ref:200-400未満)	なし	-0.589	0.316 †	0.555	-0.595	0.316 †	0.552	-0.613	0.317 †	0.542	-0.618	0.321 †	0.539
	0円-200万円未満	-0.307	0.181 †	0.736	-0.301	0.181 †	0.740	-0.310	0.182 †	0.734	-0.352	0.184 †	0.703
	400-600万円未満	0.029	0.175	1.029	0.018	0.176	1.019	0.037	0.177	1.037	0.027	0.178	1.027
	600-1000万円未満	0.165	0.182	1.179	0.152	0.184	1.164	0.180	0.186	1.197	0.149	0.188	1.161
	1000万円以上	0.136	0.267	1.146	0.122	0.269	1.130	0.197	0.271	1.217	0.195	0.273	1.215
健康状態		0.069	0.068	1.071	0.068	0.068	1.071	0.057	0.068	1.059	0.089	0.069	1.093
持家(Ref:持家以外)	自分名義持家	0.280	0.138 *	1.323	0.278	0.138 *	1.320	0.333	0.141 *	1.396	0.286	0.143 *	1.332
	親名義持家	-0.044	0.179	0.957	-0.041	0.179	0.960	0.358	0.230	1.430	0.328	0.231	1.388
キャリア (Ref:経営者・正社員)	非正規				-0.073	0.174	0.930	-0.041	0.175	0.960	0.011	0.177	1.011
	自営				-0.090	0.207	0.914	-0.076	0.208	0.927	-0.029	0.211	0.972
居住状況 (Ref:単独)	両親同居							-0.559	0.295 †	0.572	-0.550	0.297 †	0.577
	父親のみ同居							0.084	0.422	1.088	0.057	0.426	1.058
	母親のみ同居							-0.462	0.227 *	0.630	-0.444	0.227 †	0.641
	親以外のみ同居							0.040	0.188	1.041	0.030	0.188	1.031
生計	自分中心							0.122	0.226	1.129	0.100	0.228	1.105
親からの支援	父から経済支援							-0.330	0.275	0.719	-0.385	0.277	0.681
	母から経済支援							0.228	0.190	1.256	0.184	0.191	1.202
就業希望 (Ref:定年前に引退)	可能な限り										-0.351	0.171 *	0.704
	年金受給年齢まで										-0.310	0.228	0.734
	年金受給年齢前										0.019	0.307	1.019
	定年まで										-0.179	0.322	0.836
結婚希望 (Ref:わからない)	結婚決定										-0.117	0.492	0.889
	結婚したい										0.598	0.205 **	1.818
	結婚希望なし										0.215	0.181	1.240
生活設計	なし									-0.374	0.129 **	0.688	
-2対数尤度		2117.395			2117.074			2105.333			2079.718		
Cox-Snell R2乗		0.012			0.012			0.014			0.020		
Nagelkerke R2乗		0.030			0.031			0.037			0.052		

***p<.000, **p<.01, *p<.05, †p<.10

図表 12 は「低流動資産」による資産形成を行っている場合の規定要因を男女別に検討した結果である。男性において正の関連があるのは、「結婚したい」であり、負の関連は「可能な限り働きたい」「生活設計なし」である。男性において低流動資産のみの資産形成を行っているのは、結婚したいと考えている人であり、可能な限り働きたいと考え、生活設計をしていない人は行われにくいことから、生活設計と資産形成が密接に関連しているものと推測される。

女性において正の関連があるのは、「55-59 歳」、「自分名義の持家」、負の関連は、「生活設計をしていない」であり、女性において「低流動資産」による資産形成は、定年間際の世代であること、自分名義の持家を保有し、生活設計を行っている人で行われやすい。男女間の違いは自分名義持家の効果である。女性のほうがより積極的に、家という比較的安全な資産とリスクのある資産を保有するというリスク分散を考え行動している結果と推察できる。

図表 12 低流動資産のみによる資産形成：男女別

		男性			女性			
		B	標準誤差	Exp(B)	B	標準誤差	Exp(B)	
定数		-2.398	0.569 ***	0.091	-3.060	0.706	0.000	0.047
年齢 (Ref:65-69)	40-44歳	-0.431	0.319	0.650	0.407	0.437		1.503
	45-49歳	-0.305	0.300	0.737	0.741	0.402 †		2.098
	50-54歳	-0.192	0.292	0.826	0.197	0.425		1.217
	55-59歳	-0.172	0.287	0.842	0.864	0.368 *		2.373
	60-64歳	-0.120	0.271	0.887	0.342	0.373		1.407
最終学歴 (Ref:大卒)	中・高・その他	-0.094	0.181	0.911	-0.435	0.260 †		0.647
	短大・専修	0.212	0.244	1.236	0.036	0.239		1.037
配偶関係	未婚	-0.003	0.166	0.997	-0.311	0.218		0.733
世帯収入 (Ref:200-400未満)	なし	-0.774	0.454 †	0.461	-0.379	0.458		0.685
	0超-200万円未満	-0.391	0.253	0.677	-0.294	0.273		0.745
	400-600万円未満	0.091	0.232	1.095	-0.010	0.286		0.991
	600-1000万円未満	0.269	0.239	1.309	0.030	0.321		1.031
	1000万円以上	0.397	0.324	1.487	-0.119	0.562		0.888
健康状態		0.169	0.090 †	1.184	-0.018	0.109		0.982
持家(Ref:持家以外)	自分名義持家	0.140	0.183	1.150	0.476	0.234 *		1.609
	親名義持家	0.067	0.313	1.070	0.526	0.350		1.692
キャリア (Ref:経営者・正社員)	非正規	0.281	0.272	1.325	-0.202	0.235		0.817
	自営	0.037	0.253	1.038	-0.135	0.391		0.873
居住状況 (Ref:単独)	両親同居	-0.335	0.369	0.716	-0.911	0.521 †		0.402
	父親のみ同居	0.224	0.503	1.251	-0.322	0.836		0.725
	母親のみ同居	-0.449	0.285	0.638	-0.432	0.387		0.649
	親以外のみ同居	-0.028	0.295	0.972	0.003	0.262		1.003
生計	自分中心	-0.209	0.322	0.811	0.283	0.338		1.327
親からの支援	父から経済支援	-0.599	0.384	0.549	-0.036	0.407		0.965
	母から経済支援	0.064	0.264	1.066	0.326	0.284		1.385
就業希望 (Ref:定年前に引退)	可能な限り	-0.440	0.216 *	0.644	-0.241	0.285		0.786
	年金受給年齢まで	-0.427	0.298	0.653	-0.089	0.365		0.915
	年金受給年齢前	-0.087	0.389	0.917	0.136	0.510		1.145
	定年まで	-0.054	0.396	0.948	-0.382	0.577		0.683
結婚希望 (Ref:わからない)	結婚決定	0.068	0.565	1.071	-0.571	1.057		0.565
	結婚したい	0.637	0.249 *	1.890	0.510	0.372		1.666
	結婚希望なし	0.231	0.229	1.260	0.177	0.300		1.194
生活設計	なし	-0.340	0.168 *	0.712	-0.425	0.208 *		0.654
-2対数尤度	1205.414			852.280				
Cox-Snell R2乗	0.021			0.021				
Nagelkerke R2乗	0.049			0.064				
***p<.000, **p<.01, *p<.05, † p<.10								

4.4.5 「資産形成が何もない」の結果

図表 13 は「資産形成が何もない」の規定要因を分析した結果である。モデル 1 の基本属性において正の効果を示したのは、「65 歳以下のすべての年齢」、「中・高・その他」「短大・専修」、「世帯年収なし」「200 万円未満」である。一方、負の関連は「未婚」「400-600 万円未満」「600-1000 万円未満」「1000 万円以上」、「健康状態が良好なこと」、「自分名義持家」に見られる。モデル 2 では、モデル 1 の結果に加えて「キャリア非正規」、「自営」に正の関連が生じている。家族要因を検討するモデル 3 では、「男性」、居住状況の「両親同居」「母親のみ同居」「親以外のみ同居」が正の効果を示す。また負の関連が「自分中心の家計」「父から経済支援」「母から経済支援」に見られる。

図表 13 資産形成が何もない：全体

		モデル 1			モデル 2			モデル 3			モデル 4		
		B	標準誤差	Exp(B)	B	標準誤差	Exp(B)	B	標準誤差	Exp(B)	B	標準誤差	Exp(B)
定数		-0.763	0.179 ***	0.466	-0.904	0.182 ***	0.405	-0.502	0.213 *	0.605	-0.445	0.243 †	0.641
年齢 (Ref:65-69)	40-44歳	0.899	0.124 ***	2.458	0.863	0.125 ***	2.371	0.912	0.130 ***	2.489	0.578	0.139 ***	1.782
	45-49歳	0.715	0.124 ***	2.043	0.665	0.126 ***	1.944	0.697	0.128 ***	2.008	0.390	0.138 **	1.476
	50-54歳	0.749	0.122 ***	2.114	0.716	0.123 ***	2.046	0.752	0.125 ***	2.120	0.486	0.135 ***	1.625
	55-59歳	0.564	0.122 ***	1.758	0.535	0.122 ***	1.707	0.566	0.123 ***	1.761	0.363	0.131 **	1.437
	60-64歳	0.252	0.121 *	1.286	0.234	0.121 †	1.264	0.223	0.122 †	1.250	0.121	0.127	1.129
性別	男性	0.069	0.069	1.072	0.136	0.072 †	1.145	0.202	0.075 **	1.224	0.125	0.078	1.134
最終学歴 (Ref:大卒)	中・高・その他	0.566	0.078 ***	1.761	0.546	0.078 ***	1.726	0.473	0.079 ***	1.604	0.421	0.082 ***	1.524
	短大・専修	0.227	0.093 *	1.255	0.218	0.094 *	1.244	0.148	0.095	1.159	0.112	0.098	1.119
配偶関係	未婚	-0.177	0.068 **	0.838	-0.195	0.068 **	0.823	-0.194	0.071 **	0.824	-0.205	0.074 **	0.815
	なし	0.863	0.132 ***	2.371	0.884	0.132 ***	2.421	0.847	0.134 ***	2.332	0.796	0.140 ***	2.218
世帯収入 (Ref:200-400未満)	0超-200万円未満	0.610	0.087 ***	1.841	0.577	0.088 ***	1.780	0.585	0.089 ***	1.796	0.647	0.093 ***	1.909
	400-600万円未満	-0.446	0.099 ***	0.640	-0.396	0.099 ***	0.673	-0.436	0.101 ***	0.647	-0.400	0.103 ***	0.670
	600-1000万円未満	-1.043	0.120 ***	0.352	-0.979	0.121 ***	0.376	-1.048	0.122 ***	0.351	-0.966	0.125 ***	0.381
	1000万円以上	-0.702	0.180 ***	0.495	-0.636	0.180 ***	0.529	-0.759	0.183 ***	0.468	-0.753	0.188 ***	0.471
健康状態		-0.086	0.035 **	0.917	-0.081	0.035 *	0.923	-0.066	0.036 †	0.936	-0.114	0.037 **	0.892
	持家(Ref:持家以外)	自分名義持家	-0.472	0.078 ***	0.624	-0.457	0.078 ***	0.633	-0.518	0.081 ***	0.596	-0.468	0.083 ***
	親名義持家	-0.138	0.088	0.871	-0.150	0.089 †	0.861	-0.417	0.120 **	0.659	-0.388	0.123 **	0.679
キャリア (Ref:経営者・正社員)	非正規				0.358	0.083 ***	1.430	0.323	0.085 ***	1.381	0.276	0.088 **	1.317
	自営				0.288	0.113 **	1.334	0.274	0.114 *	1.316	0.222	0.118 †	1.249
居住状況 (Ref:単独)	両親同居							0.357	0.154 *	1.429	0.298	0.158 †	1.347
	父親のみ同居							0.243	0.247	1.275	0.230	0.255	1.259
	母親のみ同居							0.295	0.123 **	1.344	0.256	0.127 *	1.291
	親以外のみ同居							0.395	0.105 ***	1.485	0.419	0.108 ***	1.521
生計	自分中心							-0.488	0.113 ***	0.614	-0.447	0.117 ***	0.639
親からの支援	父から経済支援							-0.635	0.137 ***	0.530	-0.610	0.141 ***	0.543
	母から経済支援							-0.501	0.109 ***	0.606	-0.473	0.112 ***	0.623
就業希望 (Ref:定年前に引退)	可能な限り										0.308	0.098 **	1.361
	年金受給年齢まで										-0.201	0.135	0.818
	年金受給年齢前										-0.009	0.192	0.991
	定年まで										-0.035	0.193	0.965
結婚希望 (Ref:わからない)	結婚決定										-0.964	0.267 ***	0.381
	結婚したい										-0.668	0.116 ***	0.513
	結婚希望なし										-0.507	0.089 ***	0.602
生活設計	なし										0.887	0.080 ***	2.427
-2対数尤度		5318.422			5296.883			5213.513			4981.836		
Cox-Snell R2乗		0.120			0.125			0.141			0.184		
Nagelkerke R2乗		0.164			0.170			0.192			0.251		

***p<.000, **p<.01, *p<.05, †p<.10

最後のモデル4では、モデル3の効果に加えて、「可能な限り働きたい」「生活設計なし」が正の関係、「結婚決定」「結婚したい」「結婚希望なし」に負の関係が見られる。以上のことから、60歳未満、中・高・その他、世帯年収が200万円未満、キャリア非正規、母親のみ同居、親以外のみ同居、可能な限り働きたい、生活設計をおこなっていない人は資産形成を行いにくく、未婚、世帯収入400-600万円、600-1000万円、1000万円以上、健康状態が良好、自分中心の生計、父からの経済支援、母からの経済支援を受けられること、結婚に対して明確な考えを持っている人は、何らかの方法によって資産形成を行っていることが明らかになった。

図表14は「資産形成なし」の規定要因を男女別に検討した結果である。まず男性において正の関連があるのは、「40-44歳」「55-59歳」「中・高・その他」「世帯収入なし」「世帯収入200万円未満」「キャリア非正規」「親以外とのみ同居」「可能な限り働きたい」「生活設計なし」である。一方、負の関連を示す要因は、「未婚」「400-600万円」「600-1000万円」「1000万円以上」、「自分名義持家」「父からの経済支援」「母からの経済支援」、「結婚決定」「結婚したい」「結婚希望なし」である。つまり、男性において資産形成を行いにくいのは、比較的若年世代で、低学歴、世帯収入の水準が低く、自身のキャリアも非正規など社会経済的地位において不利な立場にあること、頼れる親とは同居しておらず親以外の人と同居し、可能な限り働きたいと考え、生活設計をしていない人である。対照的に、何らかの資産形成を行っているのは、未婚、世帯年収が400万円以上、自分の持家があり、父親や母親から経済支援を受けられるといった経済的資源に恵まれていること、結婚の有無について明確な希望を持っている人である。

女性において正の関連があるのは、「40-44歳」「45-49歳」「50-54歳」「55-59歳」、「中・高・その他」、「短大・専修」「世帯収入なし」、「200万円未満」、「キャリア非正規」「親以外とのみ同居」「生活設計をしていない」である。負の関連は、「未婚」世帯収入「400-600万円」、「600-1000万円」、「1000万円以上」、「健康状態が良好」、「自分名義の持家」、「親名義持家」、「自分中心の生計」、「父から経済支援」、「母から経済支援」、「年金受給年齢まで働きたい」、「結婚したい」、「結婚希望なし」である。つまり、女性において「資産形成なし」になりやすいのは、59歳以下の若年世代、大学・大学院卒より下位の最終学歴、世帯収入が200万円未満、キャリア非正規、親以外のみ同居、生活設計をしていない人である。反対に何らかの資産形成を行っている人は、世帯年収が400万円から1000万円、自分や親の持家に住み、自分中心の生計、父や母から経済支援を受けられ、年金受給年齢まで働きたいと考え、結婚したいか、したくないかの明確な意思がある人である。以上のように、男女間において規定要因の大きな違いは見られないが、何らかの資産形成を行うために、女性では健康状態の良好さが重要となるという特徴が見いだされた。

図表 14 資産形成が何もない：男女別

		男性			女性				
		B	標準誤差		Exp(B)	B	標準誤差		Exp(B)
定数		-0.614	0.348	†	0.541	-0.270	0.340		0.763
年齢 (Ref:65-69)	40-44歳	0.481	0.199	*	1.618	0.758	0.200	***	2.134
	45-49歳	0.256	0.198		1.292	0.564	0.198	**	1.757
	50-54歳	0.316	0.192		1.371	0.708	0.193	***	2.031
	55-59歳	0.390	0.187	*	1.477	0.397	0.187	*	1.488
	60-64歳	0.054	0.181		1.056	0.221	0.180		1.247
最終学歴 (Ref:大卒)	中・高・その他	0.484	0.109	***	1.622	0.376	0.127	**	1.457
	短大・専修	-0.197	0.162		0.821	0.270	0.132	*	1.310
配偶関係	未婚	-0.292	0.106	**	0.747	-0.153	0.107		0.858
世帯収入 (Ref:200-400未満)	なし	0.825	0.207	***	2.283	0.782	0.193	***	2.186
	0超-200万円未満	0.699	0.143	***	2.012	0.633	0.124	***	1.884
	400-600万円未満	-0.338	0.145	*	0.713	-0.468	0.152	**	0.626
	600-1000万円未満	-1.003	0.169	***	0.367	-0.907	0.194	***	0.404
	1000万円以上	-0.933	0.246	***	0.393	-0.418	0.300		0.659
健康状態		-0.100	0.053	†	0.905	-0.126	0.053	*	0.881
持家(Ref:持家以外)	自分名義持家	-0.456	0.117	***	0.634	-0.473	0.121	***	0.623
	親名義持家	-0.241	0.186		0.786	-0.535	0.168	**	0.585
キャリア (Ref:経営者・正社員)	非正規	0.368	0.162	*	1.445	0.291	0.108	**	1.338
	自営	0.193	0.153		1.213	0.281	0.191		1.324
居住状況 (Ref:単独)	両親同居	0.347	0.223		1.415	0.275	0.231		1.317
	父親のみ同居	-0.035	0.365		0.965	0.547	0.373		1.728
	母親のみ同居	0.194	0.175		1.214	0.364	0.189	†	1.439
	親以外のみ同居	0.660	0.194	**	1.935	0.346	0.138	*	1.413
生計	自分中心	-0.303	0.191		0.739	-0.524	0.154	**	0.592
親からの支援	父から経済支援	-0.473	0.211	*	0.623	-0.728	0.194	***	0.483
	母から経済支援	-0.540	0.175	**	0.583	-0.459	0.149	**	0.632
就業希望 (Ref:定年前に引退)	可能な限り	0.426	0.141	**	1.531	0.192	0.138		1.212
	年金受給年齢まで	-0.026	0.194		0.974	-0.399	0.190	*	0.671
	年金受給年齢前	-0.006	0.271		0.994	0.007	0.281		1.007
	定年まで	0.199	0.283		1.220	-0.263	0.269		0.769
結婚希望 (Ref:わからない)	結婚決定	-1.681	0.447	***	0.186	-0.413	0.369		0.661
	結婚したい	-0.640	0.151	***	0.527	-0.702	0.186	***	0.496
	結婚希望なし	-0.381	0.124	**	0.683	-0.648	0.131	***	0.523
生活設計	なし	0.920	0.119	***	2.510	0.850	0.110	***	2.340
-2対数尤度	2429.413				2515.683				
Cox-Snell R2乗	0.186				0.194				
Nagelkerke R2乗	0.255				0.262				
***p<.000, **p<.01, *p<.05, †p<.10									

5 老後不安とその規定要因に関する分析結果

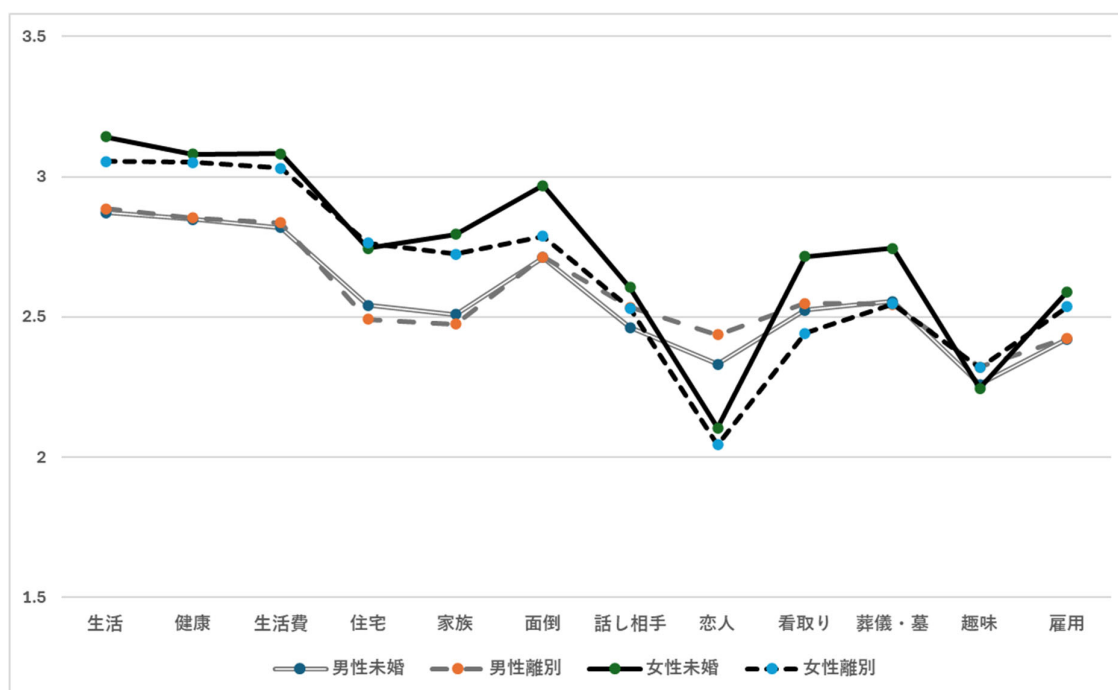
本節では老後不安に関する分析結果を示す。まず、性別・配偶関係別に12分野の老後不安を紹介し、どこに差異が生じているかを一元配置の分散分析と多重比較によって明らかにする。その後、資産形成方法と老後不安の2変数の関係をみたのち、老後不安を従属変数とする重回帰分析により、不安の規定要因を明らかにしてゆく。

5.1 性別・配偶関係と老後不安

図表15は性別・配偶関係による老後不安のスコアを示したものである。それぞれの老後不安分野によって不安の水準は異なり、また、性別・配偶関係による差異も観察できる。具体的には、女性未婚の不安が「趣味」を除いていずれの分野についても相対的に高くなっている。女性離別も男性より不安は強いが、「恋人」、「看取り」の不安は低い。男性は未婚も離別も不安は相対的に低いが、「恋人」の不安は女性よりも高い。

図表16に示した分散分析および多重比較の結果によれば、「生活」「健康」「生活費」「住宅」「家族」「雇用」の6分野では、女性が男性よりも不安を感じている。これらの分野において、女性の配偶関係間の不安差はない。女性未婚における特徴として、他の性別・配偶関係に比べて「面倒」「看取り」「葬儀・墓」の不安が高いことが挙げられる。このような傾向は女性離別にはなく、女性未婚者において子どもがいないことで終末期の不安を抱えやすいことが推測される。

図表15 性別・配偶関係と老後不安



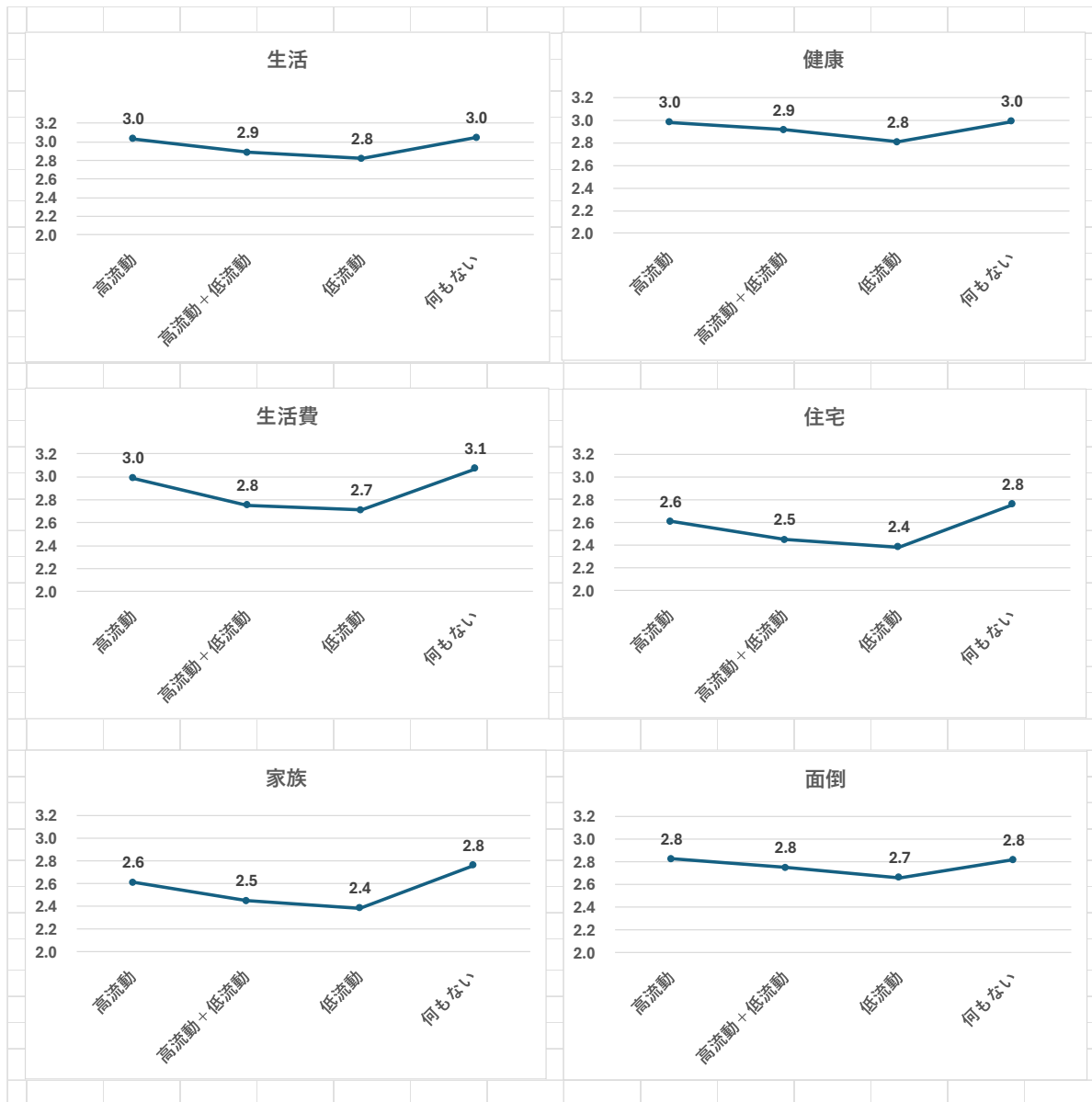
図表 16 性別・配偶関係別老後不安の平均値と一元配置分散分析・多重比較

		度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の95%信頼区間		最小値	最大値	分散分析	
						下限	上限			F値	多重比較：有意差あり
生活	男性未婚	1071	2.872	0.869	0.027	2.820	2.924	1.00	4.00	26.125	女性未婚>男性未婚、男性離別
	男性離別	1141	2.885	0.852	0.025	2.836	2.935	1.00	4.00	***	女性離別>男性未婚、男性離別
	女性未婚	1097	3.142	0.837	0.025	3.093	3.192	1.00	4.00		
	女性離別	1133	3.054	0.866	0.026	3.003	3.104	1.00	4.00		
	合計	4442	2.989	0.863	0.013	2.963	3.014	1.00	4.00		
健康	男性未婚	1071	2.848	0.857	0.026	2.796	2.899	1.00	4.00	25.162	女性未婚>男性未婚、男性離別
	男性離別	1141	2.853	0.816	0.024	2.805	2.900	1.00	4.00	***	女性離別>男性未婚、男性離別
	女性未婚	1097	3.080	0.818	0.025	3.032	3.129	1.00	4.00		
	女性離別	1133	3.051	0.825	0.025	3.003	3.099	1.00	4.00		
	合計	4442	2.958	0.836	0.013	2.934	2.983	1.00	4.00		
生活費	男性未婚	1071	2.818	0.905	0.028	2.764	2.872	1.00	4.00	25.682	女性未婚>男性未婚、男性離別
	男性離別	1141	2.836	0.873	0.026	2.785	2.887	1.00	4.00	***	女性離別>男性未婚、男性離別
	女性未婚	1097	3.081	0.864	0.026	3.030	3.132	1.00	4.00		
	女性離別	1133	3.031	0.874	0.026	2.980	3.082	1.00	4.00		
	合計	4442	2.942	0.886	0.013	2.916	2.968	1.00	4.00		
住宅	男性未婚	1071	2.542	0.933	0.029	2.487	2.598	1.00	4.00	16.684	女性未婚>男性未婚、男性離別
	男性離別	1141	2.491	0.931	0.028	2.437	2.545	1.00	4.00	***	女性離別>男性未婚、男性離別
	女性未婚	1097	2.744	0.971	0.029	2.686	2.801	1.00	4.00		
	女性離別	1133	2.673	0.969	0.029	2.617	2.730	1.00	4.00		
	合計	4442	2.612	0.956	0.014	2.584	2.640	1.00	4.00		
家族	男性未婚	1071	2.509	0.975	0.030	2.450	2.567	1.00	4.00	29.271	女性未婚>男性未婚、男性離別
	男性離別	1141	2.475	0.935	0.028	2.421	2.529	1.00	4.00	***	女性離別>男性未婚、男性離別
	女性未婚	1097	2.795	1.009	0.030	2.735	2.855	1.00	4.00		
	女性離別	1133	2.724	0.966	0.029	2.667	2.780	1.00	4.00		
	合計	4442	2.626	0.980	0.015	2.597	2.654	1.00	4.00		
面倒	男性未婚	1071	2.711	0.925	0.028	2.656	2.767	1.00	4.00	20.100	女性未婚>男性未婚、男性離別、女性離別
	男性離別	1141	2.713	0.873	0.026	2.663	2.764	1.00	4.00	***	
	女性未婚	1097	2.968	0.883	0.027	2.916	3.020	1.00	4.00		
	女性離別	1133	2.787	0.889	0.026	2.735	2.839	1.00	4.00		
	合計	4442	2.795	0.898	0.013	2.768	2.821	1.00	4.00		
話し相手	男性未婚	1071	2.462	0.934	0.029	2.406	2.518	1.00	4.00	4.306	女性未婚>男性未婚
	男性離別	1141	2.535	0.874	0.026	2.485	2.586	1.00	4.00	**	
	女性未婚	1097	2.605	0.949	0.029	2.549	2.662	1.00	4.00		
	女性離別	1133	2.531	0.950	0.028	2.476	2.587	1.00	4.00		
	合計	4442	2.534	0.928	0.014	2.507	2.561	1.00	4.00		
恋人	男性未婚	1071	2.332	1.008	0.031	2.272	2.393	1.00	4.00	38.176	男性未婚>女性未婚、女性離別
	男性離別	1141	2.436	0.966	0.029	2.380	2.493	1.00	4.00	***	男性離別>女性未婚、女性離別
	女性未婚	1097	2.104	1.040	0.031	2.042	2.166	1.00	4.00		
	女性離別	1133	2.044	1.018	0.030	1.985	2.103	1.00	4.00		
	合計	4442	2.229	1.021	0.015	2.199	2.259	1.00	4.00		
看取り	男性未婚	1071	2.524	0.972	0.030	2.466	2.582	1.00	4.00	15.934	女性未婚>男性未婚、男性離別、女性離別
	男性離別	1141	2.548	0.916	0.027	2.495	2.601	1.00	4.00	***	
	女性未婚	1097	2.716	0.987	0.030	2.658	2.775	1.00	4.00		
	女性離別	1133	2.442	0.968	0.029	2.386	2.499	1.00	4.00		
	合計	4442	2.557	0.966	0.014	2.528	2.585	1.00	4.00		
葬儀・墓	男性未婚	1071	2.556	0.958	0.029	2.499	2.614	1.00	4.00	11.705	女性未婚>男性未婚、男性離別、女性離別
	男性離別	1141	2.545	0.913	0.027	2.492	2.598	1.00	4.00	***	
	女性未婚	1097	2.744	0.961	0.029	2.687	2.801	1.00	4.00		
	女性離別	1133	2.546	0.950	0.028	2.491	2.602	1.00	4.00		
	合計	4442	2.597	0.949	0.014	2.569	2.625	1.00	4.00		
趣味	男性未婚	1071	2.260	0.926	0.028	2.204	2.315	1.00	4.00	1.953	
	男性離別	1141	2.321	0.908	0.027	2.268	2.374	1.00	4.00	n.s.	
	女性未婚	1097	2.246	0.961	0.029	2.189	2.303	1.00	4.00		
	女性離別	1133	2.320	0.973	0.029	2.264	2.377	1.00	4.00		
	合計	4442	2.287	0.943	0.014	2.260	2.315	1.00	4.00		
雇用	男性未婚	1071	2.421	0.979	0.030	2.362	2.480	1.00	4.00	7.988	女性未婚>男性未婚、男性離別
	男性離別	1141	2.425	0.936	0.028	2.371	2.479	1.00	4.00	***	女性離別>男性未婚、男性離別
	女性未婚	1097	2.589	1.021	0.031	2.528	2.649	1.00	4.00		
	女性離別	1133	2.537	0.986	0.029	2.479	2.594	1.00	4.00		
	合計	4442	2.493	0.983	0.015	2.464	2.522	1.00	4.00		

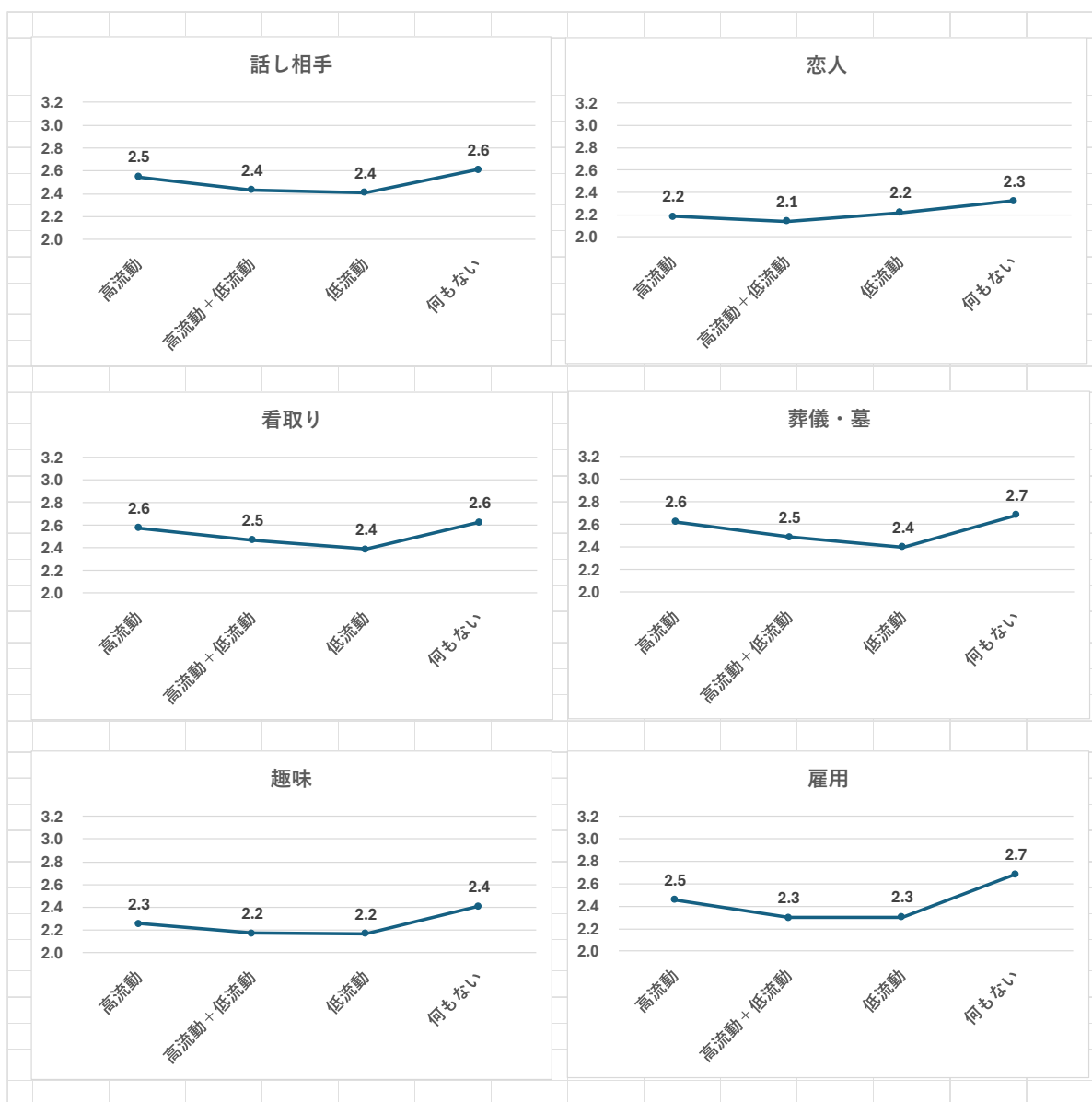
5.2 資産形成方法と老後不安

図表 17 および 18 は資産形成方法と老後不安の関連を示したものである。全体的に「資産形成が何もない」人については、いずれの不安領域においても不安の水準が高い傾向がある。「高流動資産」のみを保有している人も資産形成が何もない人に準ずる水準で不安は高い傾向が読み取れる。その一方で、「低流動資産」を保有している人は相対的に不安の水準が低い。低流動資産は一般的に長期的視点をふまえた資産形成方法であることから、老後不安との関係が強いと推察でき、この関連は先行研究と整合的である。

図表 17 資産形成方法と老後不安 # 1



図表 18 資産形成方法と老後不安# 2



図表 19 は、資産形成と不安の関係について一元配置分散分析と多重比較により、統計的な差異を見た結果である。「生活」「生活費」「住宅」「家族」「面倒」「話し相手」「看取り」「葬儀・墓」「雇用」の 10 分野において、「低流動資産」を保有している人のほうが「高流動資産のみ」の資産形成を行っている人よりも不安の水準が低い。また「何もない」人は「高流動資産のみ」、「低流動資産」を保有している人よりも不安が高い。これら 2 変数の分析からは、資産形成方法と不安に関係があること、不安の分野によって資産形成方法との関連に差異があることが確認できる。資産形成方法と不安について時間的な前後関係を特定することは困難で、因果関係は慎重に解釈すべきであるが、低流動資産保有は手元資金の余裕や長期的視点と結びついている可能性があり、そのような条件を持つ人は多様な不安領域において不安水準が低いと推察できる。

図表 19 資産形成方法別老後不安の平均値と一元配置分散分析・多重比較

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の95%信頼		最小値	最大値	多重比較：有意差あり	
					下限	上限				
生活	高流動資産のみ	1341	3.035	0.817	0.022	2.991	3.079	1.00	4.00	高流動>高流動&低流動、低流動
	高流動資産&低流動資産	1130	2.888	0.827	0.025	2.839	2.936	1.00	4.00	何もない>高流動&低流動、低流動
	低流動資産のみ	295	2.824	0.886	0.052	2.722	2.925	1.00	4.00	
	何もない	1676	3.048	0.909	0.022	3.005	3.092	1.00	4.00	
	合計	4442	2.989	0.863	0.013	2.963	3.014	1.00	4.00	
健康	高流動資産のみ	1341	2.984	0.792	0.022	2.942	3.027	1.00	4.00	高流動>低流動
	高流動資産&低流動資産	1130	2.916	0.801	0.024	2.869	2.963	1.00	4.00	何もない>低流動
	低流動資産のみ	295	2.810	0.823	0.048	2.716	2.905	1.00	4.00	
	何もない	1676	2.992	0.889	0.022	2.950	3.035	1.00	4.00	
	合計	4442	2.958	0.836	0.013	2.934	2.983	1.00	4.00	
生活費	高流動資産のみ	1341	2.989	0.833	0.023	2.944	3.033	1.00	4.00	高流動>高流動&低流動、低流動
	高流動資産&低流動資産	1130	2.754	0.874	0.026	2.703	2.805	1.00	4.00	何もない>高流動&低流動、低流動
	低流動資産のみ	295	2.712	0.904	0.053	2.608	2.816	1.00	4.00	
	何もない	1676	3.072	0.904	0.022	3.028	3.115	1.00	4.00	
	合計	4442	2.942	0.886	0.013	2.916	2.968	1.00	4.00	
住宅	高流動資産のみ	1341	2.611	0.931	0.025	2.562	2.661	1.00	4.00	高流動>高流動&低流動、低流動
	高流動資産&低流動資産	1130	2.452	0.930	0.028	2.398	2.506	1.00	4.00	何もない>高流動&低流動、低流動
	低流動資産のみ	295	2.386	0.929	0.054	2.280	2.493	1.00	4.00	
	何もない	1676	2.761	0.973	0.024	2.714	2.807	1.00	4.00	
	合計	4442	2.612	0.956	0.014	2.584	2.640	1.00	4.00	
家族	高流動資産のみ	1341	2.672	0.956	0.026	2.621	2.723	1.00	4.00	高流動>高流動&低流動、低流動
	高流動資産&低流動資産	1130	2.476	0.953	0.028	2.420	2.532	1.00	4.00	何もない>高流動&低流動、低流動
	低流動資産のみ	295	2.464	0.910	0.053	2.360	2.569	1.00	4.00	
	何もない	1676	2.718	1.015	0.025	2.669	2.766	1.00	4.00	
	合計	4442	2.626	0.980	0.015	2.597	2.654	1.00	4.00	
面倒	高流動資産のみ	1341	2.828	0.853	0.023	2.782	2.873	1.00	4.00	高流動>低流動
	高流動資産&低流動資産	1130	2.751	0.862	0.026	2.701	2.802	1.00	4.00	何もない>低流動
	低流動資産のみ	295	2.661	0.869	0.051	2.561	2.761	1.00	4.00	
	何もない	1676	2.821	0.957	0.023	2.775	2.867	1.00	4.00	
	合計	4442	2.795	0.898	0.013	2.768	2.821	1.00	4.00	
話し相手	高流動資産のみ	1341	2.549	0.899	0.025	2.501	2.597	1.00	4.00	高流動>高流動&低流動
	高流動資産&低流動資産	1130	2.434	0.890	0.026	2.382	2.486	1.00	4.00	何もない>高流動&低流動、低流動
	低流動資産のみ	295	2.410	0.856	0.050	2.312	2.508	1.00	4.00	
	何もない	1676	2.612	0.980	0.024	2.565	2.659	1.00	4.00	
	合計	4442	2.534	0.928	0.014	2.507	2.561	1.00	4.00	
恋人	高流動資産のみ	1341	2.186	1.007	0.028	2.132	2.240	1.00	4.00	何もない>高流動、高流動&低流動
	高流動資産&低流動資産	1130	2.142	0.998	0.030	2.084	2.201	1.00	4.00	
	低流動資産のみ	295	2.220	0.920	0.054	2.115	2.326	1.00	4.00	
	何もない	1676	2.323	1.057	0.026	2.273	2.374	1.00	4.00	
	合計	4442	2.229	1.021	0.015	2.199	2.259	1.00	4.00	
看取り	高流動資産のみ	1341	2.579	0.921	0.025	2.529	2.628	1.00	4.00	高流動>高流動&低流動、低流動
	高流動資産&低流動資産	1130	2.470	0.971	0.029	2.413	2.527	1.00	4.00	何もない>高流動&低流動、低流動
	低流動資産のみ	295	2.390	0.877	0.051	2.289	2.490	1.00	4.00	
	何もない	1676	2.627	1.003	0.025	2.579	2.675	1.00	4.00	
	合計	4442	2.557	0.966	0.014	2.528	2.585	1.00	4.00	
葬儀・墓	高流動資産のみ	1341	2.622	0.919	0.025	2.573	2.671	1.00	4.00	高流動>高流動&低流動、低流動
	高流動資産&低流動資産	1130	2.490	0.925	0.028	2.436	2.544	1.00	4.00	何もない>高流動&低流動、低流動
	低流動資産のみ	295	2.400	0.878	0.051	2.299	2.501	1.00	4.00	
	何もない	1676	2.684	0.988	0.024	2.637	2.732	1.00	4.00	
	合計	4442	2.597	0.949	0.014	2.569	2.625	1.00	4.00	
趣味	高流動資産のみ	1341	2.256	0.916	0.025	2.207	2.305	1.00	4.00	何もない>高流動&低流動、低流動
	高流動資産&低流動資産	1130	2.174	0.920	0.027	2.121	2.228	1.00	4.00	
	低流動資産のみ	295	2.169	0.816	0.047	2.076	2.263	1.00	4.00	
	何もない	1676	2.410	0.986	0.024	2.363	2.457	1.00	4.00	
	合計	4442	2.287	0.943	0.014	2.260	2.315	1.00	4.00	
雇用	高流動資産のみ	1341	2.459	0.951	0.026	2.408	2.510	1.00	4.00	高流動>高流動&低流動、低流動
	高流動資産&低流動資産	1130	2.299	0.959	0.029	2.243	2.355	1.00	4.00	何もない>高流動、高流動&低流動、低流動
	低流動資産のみ	295	2.305	0.905	0.053	2.201	2.409	1.00	4.00	
	何もない	1676	2.684	1.003	0.024	2.636	2.732	1.00	4.00	
	合計	4442	2.493	0.983	0.015	2.464	2.522	1.00	4.00	

5.3 老後不安の規定要因

本節では、老後不安それぞれを従属変数とする重回帰分析を行い、資産形成方法を中心にその規定要因を明らかにしてゆく。いずれの老後不安についても、モデル1では年齢、性別、最終学歴、配偶関係、世帯収入（連続変数）⁸、健康状態、居住状況（単独世帯ダミー）、資産形成方法、持家を投入し、モデル2では老後の経済支援者なし、生計維持手段、結婚希望変数を加えた分析を行う。

図表20は「生活」「健康」「生活費」「住宅」不安を従属変数とする分析結果を示したものである。まず「生活」について、モデル1では、64歳以下のいずれの年齢においても不安は高く、「高流動資産のみ」を保有していると不安は高い。一方で、「男性」、「健康状態が良好なほど」、「世帯年収が高いほど」、「自分名義持家があること」は不安を低下させている。老後の経済支援、生活維持手段、結婚希望を追加投入したモデル2では、「高流動資産のみ」の効果は低下し、「老後の経済支援者がなく」、老後の生計維持手段として「仕事収入」や「公的年金」を想定していると不安は高く、「不動産収入」や「利息・配当金収入」の場合には不安が低下する。また「結婚したい意向」を持つことは不安を高めていた。

「健康不安」のモデル1では、「高流動資産のみ」、「高流動資産&低流動資産」が不安を高め、「男性」、「世帯年収が高いほど」、「健康状態が良好であるほど」、「単独世帯」、「自分名義持家」は不安を低下させる。モデル2では、資産形成方法の老後不安を高める効果が低下し、「老後の経済支援者なし」、「公的年金」、「結婚したい意向」は不安を高めるが、「利息・配当金収入」が見込めることは不安を低下させていた。

「生活費不安」についてモデル1では、「64歳以下のいずれの年齢」においても不安は高く、「中・高・その他卒」も不安を高める。一方、「男性」、「世帯年収が多いほど」、「健康状態が良好なほど」、「単独世帯であること」、「高流動&低流動資産」、「低流動資産のみ」、「自分名義持家」は不安を低下させる。モデル2では、「高流動&低流動」の不安低減効果が低下し、「老後の経済支援者なし」、「仕事収入」、「公的年金」が不安を高め、「不動産収入」と「利息・配当金収入」は不安を低下させていた。

「住宅不安」においては、生活不安や生活費不安と類似する結果である。具体的にはモデル1では「64歳以下のいずれの年齢」においても不安は高く、「男性」、「世帯年収が多いほど」、「健康状態が良好なほど」、「低流動資産のみ」、「自分名義持家」、「親名義持家」は不安を低下させる。モデル2では、資産形成方法の効果が弱まり、「老後の経済支援者なし」、「仕事収入」、「結婚したい意向」が不安を高める一方で、「単独世帯」であること、「不動産収入」、「利息・配当収入」は不安を低下させていた。

⁸ 本分析で使用する世帯年収は連続変数である。本調査で「1なし」から「11 1500万円以上」の11カテゴリーで尋ねた回答について、「1なしは0」、「11 1500万円以上は1500」へ、その他はカテゴリーの中央値に変換して作成した。配偶関係別の世帯年収の平均値は、男性未婚406.7万円、男性離別466.4万円、女性未婚341.2万円、女性離別342.8万円である。

図表 20 老後不安の規定要因：全体# 1

		生活不安								健康不安							
		モデル1				モデル2				モデル1				モデル2			
		B	SE	β		B	SE	β		B	SE	β		B	SE	β	
	(定数)	3.955	0.067		**	3.696	0.076		***	4.285	0.063		***	4.068	0.072		***
年齢 (Ref:65-69歳)	40-44歳	0.147	0.045	0.063	**	0.140	0.046	0.060	**	0.051	0.042	0.023		0.060	0.044	0.027	
	45-49歳	0.205	0.044	0.089	***	0.191	0.046	0.083	***	0.065	0.042	0.029		0.077	0.043	0.035	†
	50-54歳	0.173	0.044	0.076	***	0.174	0.044	0.076	***	0.053	0.041	0.024		0.072	0.042	0.032	†
	55-59歳	0.204	0.043	0.089	***	0.197	0.043	0.086	***	0.082	0.041	0.037	*	0.092	0.041	0.041	*
	60-64歳	0.113	0.043	0.049	**	0.121	0.042	0.053	**	0.008	0.040	0.003		0.021	0.040	0.009	
性別	男性	-0.138	0.025	-0.080	***	-0.154	0.026	-0.089	***	-0.154	0.024	-0.092	***	-0.164	0.024	-0.098	***
最終学歴 (Ref:大卒)	中・高・その他	0.040	0.029	0.023		0.042	0.029	0.024		0.028	0.027	0.016		0.032	0.027	0.019	
	短大・専修	0.027	0.034	0.013		0.026	0.033	0.012		0.020	0.032	0.010		0.021	0.032	0.011	
配偶関係	未婚	-0.001	0.025	0.000		0.003	0.025	0.002		-0.024	0.023	-0.014		-0.016	0.023	-0.009	
世帯収入		0.000	0.000	-0.140	***	0.000	0.000	-0.138	***	0.000	0.000	-0.109	***	0.000	0.000	-0.111	***
健康状態		-0.242	0.013	-0.268	***	-0.237	0.013	-0.263	***	-0.326	0.012	-0.373	***	-0.321	0.012	-0.367	***
居住状況	単独世帯	-0.076	0.029	-0.044	**	-0.092	0.029	-0.053	**	-0.076	0.027	-0.045	**	-0.084	0.027	-0.050	**
資産形成方法 (Ref:何もない)	高流動資産のみ	0.092	0.030	0.049	**	0.050	0.030	0.027		0.091	0.028	0.050	**	0.049	0.029	0.027	†
	高流動&低流動	0.043	0.033	0.021		0.030	0.038	0.015		0.104	0.031	0.054	**	0.059	0.036	0.031	†
	低流動資産のみ	-0.036	0.052	-0.010		-0.039	0.052	-0.011		-0.008	0.049	-0.002		-0.037	0.050	-0.011	
持家(Ref:自分名義持家 持家以外)	自分名義持家	-0.140	0.029	-0.077	***	-0.131	0.029	-0.072	***	-0.086	0.027	-0.049	**	-0.081	0.027	-0.046	**
	親名義持家	0.046	0.037	0.022		0.039	0.037	0.018		0.022	0.035	0.011		0.018	0.035	0.009	
老後の経済支援者なし						0.138	0.027	0.074	***					0.070	0.026	0.039	**
生計維持手段	仕事収入					0.121	0.026	0.065	***					0.052	0.025	0.029	**
	公的年金					0.166	0.028	0.096	***					0.147	0.026	0.088	***
	企業年金					-0.048	0.042	-0.017						0.023	0.040	0.008	
	個人年金					0.027	0.035	0.012						0.020	0.033	0.009	
	不動産収入					-0.148	0.069	-0.030	*					-0.105	0.065	-0.022	
	利息・配当金収入					-0.137	0.042	-0.052	**					-0.082	0.039	-0.032	*
結婚希望 (Ref:わからない)	結婚決定					0.000	0.086	0.000						0.054	0.081	0.009	
	結婚したい					0.260	0.040	0.113	***					0.260	0.038	0.116	***
	結婚希望なし					0.039	0.032	0.022						0.055	0.030	0.032	†
調整済R2乗		0.137				0.165				0.184				0.202			
		生活費不安								住宅不安							
		モデル1				モデル2				モデル1				モデル2			
		B	SE	β		B	SE	β		B	SE	β		B	SE	β	
	(定数)	3.916	0.068		***	3.621	0.077		***	3.428	0.073		***	3.354	0.083		***
年齢 (Ref:65-69歳)	40-44歳	0.234	0.045	0.098	***	0.233	0.046	0.098	***	0.409	0.048	0.159	***	0.317	0.050	0.123	***
	45-49歳	0.265	0.045	0.112	***	0.252	0.046	0.107	***	0.389	0.048	0.152	***	0.284	0.050	0.111	***
	50-54歳	0.270	0.044	0.115	***	0.273	0.045	0.116	***	0.333	0.047	0.131	***	0.258	0.048	0.102	***
	55-59歳	0.281	0.043	0.119	***	0.273	0.044	0.116	***	0.316	0.047	0.124	***	0.252	0.047	0.099	***
	60-64歳	0.152	0.043	0.064	***	0.165	0.042	0.070	***	0.148	0.046	0.058	**	0.130	0.046	0.051	**
性別	男性	-0.127	0.026	-0.072	***	-0.141	0.026	-0.080	***	-0.109	0.028	-0.057	***	-0.153	0.028	-0.080	***
最終学歴 (Ref:大卒)	中・高・その他	0.073	0.029	0.040	*	0.069	0.029	0.038	*	-0.012	0.031	-0.006		-0.009	0.031	-0.005	
	短大・専修	0.035	0.034	0.016		0.032	0.034	0.015		0.002	0.037	0.001		-0.002	0.036	-0.001	
配偶関係	未婚	-0.023	0.025	-0.013		-0.015	0.025	-0.008		0.030	0.027	0.016		0.013	0.027	0.007	
世帯収入		0.000	0.000	-0.162	***	0.000	0.000	-0.155	***	0.000	0.000	-0.102	***	0.000	0.000	-0.094	***
健康状態		-0.240	0.013	-0.259	***	-0.235	0.013	-0.254	***	-0.180	0.014	-0.180	***	-0.177	0.014	-0.177	***
居住状況	単独世帯	-0.078	0.029	-0.044	**	-0.091	0.029	-0.051	**	-0.034	0.031	-0.018		-0.065	0.031	-0.034	*
資産形成方法 (Ref:何もない)	高流動資産のみ	0.040	0.030	0.021		-0.001	0.030	0.000		-0.012	0.033	-0.006		0.014	0.033	0.007	
	高流動&低流動	-0.076	0.034	-0.037	*	-0.032	0.038	-0.016		-0.065	0.036	-0.030	†	0.032	0.041	0.014	
	低流動資産のみ	-0.143	0.052	-0.040	**	-0.105	0.053	-0.029	*	-0.146	0.056	-0.038	**	-0.081	0.057	-0.021	
持家(Ref:自分名義持家 持家以外)	自分名義持家	-0.169	0.029	-0.091	***	-0.151	0.029	-0.081	***	-0.546	0.031	-0.273	***	-0.541	0.031	-0.270	***
	親名義持家	0.072	0.038	0.033	†	0.069	0.037	0.032	†	-0.169	0.040	-0.072	***	-0.185	0.040	-0.079	***
老後の経済支援者なし						0.147	0.027	0.077	***	5.367				0.211	0.030	0.102	***
生計維持手段	仕事収入					0.153	0.026	0.080	***	5.794				0.087	0.029	0.042	**
	公的年金					0.173	0.028	0.097	***	6.262				-0.025	0.030	-0.013	
	企業年金					-0.065	0.042	-0.022		-1.543				-0.043	0.046	-0.014	
	個人年金					-0.039	0.035	-0.017		-1.138				-0.028	0.038	-0.011	
	不動産収入					-0.196	0.069	-0.039	**	-2.845				-0.154	0.075	-0.028	*
	利息・配当金収入					-0.246	0.042	-0.091	***	-5.891				-0.132	0.045	-0.045	**
結婚希望 (Ref:わからない)	結婚決定					0.049	0.086	0.008		0.569				-0.174	0.094	-0.026	†
	結婚したい					0.260	0.040	0.110	***	6.446				0.169	0.044	0.066	***
	結婚希望なし					0.060	0.032	0.033	†	1.892				-0.046	0.035	-0.023	
調整済R2乗		0.169				0.201				0.171				0.192			

***p<.000, **p<.01, *p<.05, †p<.10

図表 21 は「家族」「面倒」「話し相手」「恋人」不安を従属変数とする分析結果を示したものである。まず「家族」について、モデル 1 では、「64 歳以下のいずれの年齢」においても不安は高く、資産形成方法の有意な影響は見られない。一方で、「男性」、「単独世帯」であること、「健康状態が良好なほど」、「世帯年収が高いほど」、「自分名義持家」があることは不安を低下させている。モデル 2 では、「仕事収入」は不安を高め、「利息・配当金収入」は不安を低下させた。結婚希望について、「結婚したいこと」は不安を高め、「結婚が決定」、あるいは「結婚希望がない」と不安は低下していた。

「面倒」のモデル 1 では、「64 歳以下の年齢」であること、「高流動資産のみ」、「高流動資産&低流動資産」が不安を高め、「男性」、「世帯年収が高いほど」、「健康状態が良好であるほど」、「自分名義持家」は不安を低下させる。モデル 2 では、資産形成方法の老後不安を高める効果が低下し、「老後の経済支援者なし」、「公的年金」、「結婚したい意向」は不安を高めるが、「不動産収入」が見込めることは不安を低下させていた。

「話し相手」についてモデル 1 では、「64 歳以下のいずれの年齢」においても不安は高く、「親名義持家」は不安を高めるが、「世帯年収が多いほど」、「健康状態が良好なほど」、「自分名義持家」は不安を低下させる。モデル 2 では、「老後の経済支援者なし」、「結婚したい意向」が不安を高めるが、「不動産収入」、「利息・配当金収入」、「結婚希望なし」は不安を低下させていた。

「恋人」においては、「64 歳以下のいずれの年齢」、「男性」、「中・高・その他卒」、「親名義持家」も不安を高める。「世帯年収が多いほど」、「健康状態が良好であるほど」、「高流動&低流動の資産」を保有することは不安を低下させる。モデル 2 では、「短大・専修卒」、「未婚」、「公的年金」、「利息・配当金収入」、「結婚決定」、「結婚希望なし」が不安を低下させるが、「仕事収入」、「結婚したい意向」は不安を高めていた。

図表 22 は「看取り」「葬儀・お墓」「趣味」「雇用不安定」不安を従属変数とする分析結果を示したものである。まず「看取り」について、モデル 1 では、「59 歳以下のいずれの年齢」においても不安は高く、「未婚」、「親名義持家」も不安を高める。一方で「世帯年収が高いほど」、「健康状態が良いほど」、「低流動資産のみ」を保有することは不安を低減させる。モデル 2 でも「低流動資産のみ」の不安低減効果が認められ、「利息・配当金収入」、「結婚決定」、「結婚希望なし」は不安を低下させるが、「老後の経済支援者なし」、「個人年金」、「結婚したい意向」は不安を高めていた。

「葬儀・お墓」について、モデル 1 では、「59 歳以下の年齢」であること、「未婚」、「親名義持家」は不安を高め、「世帯年収が多いほど」、「健康状態が優良なほど」、「低流動資産のみ」の保有、「自分名義持家」は不安を低減する。モデル 2 では、「男性」、「不動産収入」、「利息・配当金収入」、「結婚希望なし」は不安を低下させ、「老後の経済支援者なし」、「仕事収入」、「公的年金」、「結婚したい意向」は不安を高めていた。

「趣味」のモデル 1 では、「59 歳以下のいずれの年齢」においても不安は高いが、「未婚」、「世帯年収が多いほど」、「健康状態が良好なほど」、「高流動資産のみ」、「高流動&低流動」、「低流動資産のみ」は不安を低下させる。モデル 2 では資産形成方法の効果は消え「公的年金」、「不動産収入」、「利息・配当金収入」、「結婚決定」、「結婚希望なし」の不安低減効果があったが、「老後の経済支援者なし」、「結婚したい意向」は不安を高めていた。

図表 21 老後不安の規定要因：全体# 2

		家族に先立たれる不安						面倒をみてくれる人がいない不安					
		モデル1			モデル2			モデル1			モデル2		
		B	SE	β	B	SE	β	B	SE	β	B	SE	β
	(定数)	3.311	0.076	***	3.409	0.088	***	3.553	0.072	***	3.424	0.082	***
年齢 (Ref:65-69歳)	40-44歳	0.433	0.051	0.165 ***	0.377	0.053	0.144 ***	0.217	0.048	0.090 ***	0.162	0.049	0.067 **
	45-49歳	0.425	0.050	0.162 ***	0.371	0.052	0.142 ***	0.229	0.047	0.096 ***	0.175	0.049	0.073 ***
	50-54歳	0.370	0.050	0.142 ***	0.330	0.051	0.127 ***	0.219	0.046	0.092 ***	0.185	0.047	0.078 ***
	55-59歳	0.244	0.049	0.093 ***	0.219	0.050	0.084 ***	0.187	0.046	0.078 ***	0.159	0.046	0.066 **
	60-64歳	0.125	0.049	0.048 **	0.131	0.048	0.050 **	0.112	0.045	0.047 *	0.108	0.045	0.045 *
性別	男性	-0.164	0.029	-0.083 ***	-0.192	0.030	-0.098 ***	-0.114	0.027	-0.064 ***	-0.155	0.028	-0.086 ***
最終学歴 (Ref:大卒)	中・高・その他	0.046	0.033	0.023	0.046	0.033	0.023	0.003	0.031	0.001	0.011	0.030	0.006
	短大・専修	0.068	0.039	0.029 †	0.057	0.038	0.024	-0.019	0.036	-0.009	-0.022	0.036	-0.010
配偶関係	未婚	0.023	0.028	0.012	0.034	0.028	0.017	0.050	0.026	0.028 †	0.042	0.026	0.023
世帯収入		0.000	0.000	-0.052 **	0.000	0.000	-0.056 ***	0.000	0.000	-0.104 ***	0.000	0.000	-0.101 ***
健康状態		-0.187	0.015	-0.182 ***	-0.190	0.015	-0.186 ***	-0.219	0.014	-0.233 ***	-0.213	0.014	-0.227 ***
居住状況	単独世帯	-0.273	0.033	-0.138 ***	-0.263	0.033	-0.133 ***	-0.030	0.031	-0.016	-0.053	0.031	-0.029 †
資産形成方法 (Ref:何もない)	高流動資産のみ	0.048	0.034	0.022	0.039	0.035	0.018	0.095	0.032	0.048 **	0.075	0.032	0.038 *
	高流動&低流動	-0.049	0.038	-0.022	0.000	0.043	0.000	0.087	0.036	0.042 *	0.064	0.041	0.031
	低流動資産のみ	-0.065	0.059	-0.016	-0.049	0.060	-0.013	-0.005	0.055	-0.001	-0.022	0.056	-0.006
持家(Ref:自分名義持家持家以外)	自分名義持家	-0.143	0.033	-0.070 ***	-0.123	0.033	-0.060 ***	-0.100	0.031	-0.053 **	-0.098	0.030	-0.052 **
	親名義持家	0.077	0.042	0.032 †	0.090	0.042	0.038 *	0.071	0.040	0.032 †	0.054	0.039	0.025
老後の経済支援者なし					-0.053	0.031	-0.025 †				0.147	0.029	0.076 ***
生計維持手段	仕事収入				0.105	0.030	0.050 ***				0.046	0.028	0.024
	公的年金				-0.001	0.032	0.000				0.117	0.029	0.065 ***
	企業年金				0.075	0.048	0.023				-0.033	0.045	-0.011
	個人年金				-0.036	0.040	-0.014				0.039	0.037	0.017
	不動産収入				-0.084	0.079	-0.015				-0.153	0.073	-0.030 *
利息・配当金収入				-0.158	0.048	-0.053 **				-0.053	0.044	-0.019	
結婚希望 (Ref:わからない)	結婚決定				-0.234	0.099	-0.035 *				-0.145	0.092	-0.023
	結婚したい				0.199	0.046	0.076 ***				0.295	0.043	0.123 ***
	結婚希望なし				-0.115	0.036	-0.057 **				-0.056	0.034	-0.030 †
調整済R2乗		0.131			0.150			0.092			0.120		
		話し相手がない不安						恋人がない不安					
		モデル1			モデル2			モデル1			モデル2		
		B	SE	β	B	SE	β	B	SE	β	B	SE	β
	(定数)	3.113	0.075	***	3.143	0.085	***	2.242	0.082	***	2.611	0.090	***
年齢 (Ref:65-69歳)	40-44歳	0.415	0.050	0.167 ***	0.308	0.051	0.124 ***	0.595	0.054	0.217 ***	0.347	0.054	0.127 ***
	45-49歳	0.324	0.049	0.131 ***	0.215	0.051	0.087 ***	0.538	0.054	0.197 ***	0.295	0.054	0.108 ***
	50-54歳	0.277	0.049	0.113 ***	0.197	0.049	0.080 ***	0.440	0.053	0.163 ***	0.248	0.052	0.092 ***
	55-59歳	0.220	0.048	0.089 ***	0.157	0.048	0.064 **	0.348	0.053	0.128 ***	0.212	0.051	0.078 ***
	60-64歳	0.101	0.047	0.041 *	0.084	0.047	0.034 †	0.116	0.052	0.043 *	0.074	0.050	0.027
性別	男性	-0.016	0.028	-0.009	-0.070	0.029	-0.038 *	0.332	0.031	0.163 ***	0.221	0.030	0.108 ***
最終学歴 (Ref:大卒)	中・高・その他	-0.025	0.032	-0.013	-0.020	0.032	-0.011	-0.072	0.035	-0.035 *	-0.064	0.034	-0.031 †
	短大・専修	-0.009	0.038	-0.004	-0.018	0.037	-0.008	-0.061	0.041	-0.025	-0.083	0.039	-0.033 *
配偶関係	未婚	-0.036	0.027	-0.019	-0.048	0.027	-0.026 †	-0.050	0.030	-0.024 †	-0.071	0.029	-0.035 *
世帯収入		0.000	0.000	-0.086 ***	0.000	0.000	-0.081 ***	0.000	0.000	-0.060 ***	0.000	0.000	-0.060 ***
健康状態		-0.179	0.014	-0.185 ***	-0.176	0.014	-0.181 ***	-0.101	0.016	-0.094 ***	-0.103	0.015	-0.096 ***
居住状況	単独世帯	-0.029	0.032	-0.016	-0.051	0.032	-0.027	0.038	0.035	0.019	0.016	0.034	0.008
資産形成方法 (Ref:何もない)	高流動資産のみ	0.023	0.033	0.011	0.028	0.034	0.014	-0.055	0.037	-0.025	-0.009	0.036	-0.004
	高流動&低流動	-0.040	0.037	-0.019	0.002	0.042	0.001	-0.113	0.041	-0.048 **	0.012	0.045	0.005
	低流動資産のみ	-0.073	0.058	-0.020	-0.052	0.058	-0.014	-0.059	0.063	-0.014	-0.009	0.062	-0.002
持家(Ref:自分名義持家持家以外)	自分名義持家	-0.069	0.032	-0.036 *	-0.064	0.032	-0.033 *	-0.031	0.035	-0.015	-0.018	0.034	-0.009
	親名義持家	0.106	0.041	0.046 *	0.091	0.041	0.040 *	0.098	0.045	0.039 *	0.084	0.043	0.034 †
老後の経済支援者なし					0.130	0.030	0.065 ***				0.102	0.032	0.046 **
生計維持手段	仕事収入				0.044	0.029	0.022				0.066	0.031	0.030 *
	公的年金				0.032	0.031	0.017				-0.116	0.032	-0.056 ***
	企業年金				-0.047	0.047	-0.015				-0.032	0.049	-0.010
	個人年金				0.036	0.038	0.015				0.033	0.041	0.012
	不動産収入				-0.227	0.076	-0.043 **				-0.134	0.081	-0.023 †
利息・配当金収入				-0.117	0.046	-0.041 *				-0.194	0.049	-0.062 ***	
結婚希望 (Ref:わからない)	結婚決定				-0.236	0.096	-0.037				-0.499	0.101	-0.071 ***
	結婚したい				0.263	0.045	0.106 ***				0.390	0.047	0.143 ***
	結婚希望なし				-0.151	0.035	-0.079 ***				-0.402	0.037	-0.192 ***
調整済R2乗		0.073			0.105			0.082			0.174		

***p<.000, **p<.01, *p<.05, †p<.10

図表 22 老後不安の規定要因：全体# 3

		最期の看取り不安						葬儀やお墓の不安					
		モデル1			モデル2			モデル1			モデル2		
		B	SE	β	B	SE	β	B	SE	β	B	SE	β
	(定数)	2.987	0.078	***	3.066	0.089	***	3.120	0.077	***	3.126	0.087	***
年齢 (Ref:65-69歳)	40-44歳	0.290	0.052	0.112 ***	0.156	0.054	0.060 **	0.273	0.051	0.107 ***	0.174	0.053	0.069 **
	45-49歳	0.294	0.052	0.114 ***	0.163	0.053	0.063 **	0.261	0.051	0.103 ***	0.159	0.052	0.063 **
	50-54歳	0.267	0.051	0.104 ***	0.167	0.052	0.065 **	0.264	0.050	0.105 ***	0.193	0.051	0.077 ***
	55-59歳	0.174	0.050	0.068 **	0.099	0.051	0.038 †	0.201	0.049	0.080 ***	0.146	0.050	0.058 **
	60-64歳	0.056	0.050	0.022	0.032	0.049	0.012	0.077	0.049	0.030	0.067	0.048	0.026
性別	男性	0.005	0.030	0.003	-0.058	0.030	-0.030 †	-0.034	0.029	-0.018	-0.089	0.029	-0.047 **
最終学歴 (Ref:大卒)	中・高・その他	-0.024	0.034	-0.012	-0.016	0.033	-0.008	0.025	0.033	0.013	0.030	0.033	0.016
	短大・専修	-0.002	0.040	-0.001	-0.009	0.039	-0.004	-0.013	0.039	-0.006	-0.022	0.038	-0.010
配偶関係	未婚	0.088	0.029	0.046 **	0.072	0.029	0.037 *	0.074	0.028	0.039 **	0.064	0.028	0.034 *
世帯収入		0.000	0.000	-0.078 ***	0.000	0.000	-0.080 ***	0.000	0.000	-0.083 ***	0.000	0.000	-0.083 ***
健康状態		-0.158	0.015	-0.156 ***	-0.155	0.015	-0.153 ***	-0.159	0.015	-0.161 ***	-0.158	0.015	-0.160 ***
居住状況	単独世帯	0.016	0.034	0.008	-0.009	0.033	-0.005	-0.061	0.033	-0.032 †	-0.083	0.033	-0.044 *
資産形成方法 (Ref:何もない)	高流動資産のみ	0.021	0.035	0.010	0.026	0.035	0.012	0.017	0.034	0.008	0.012	0.035	0.006
	高流動&低流動	-0.050	0.039	-0.023	-0.030	0.044	-0.013	-0.054	0.038	-0.025	-0.019	0.043	-0.009
	低流動資産のみ	-0.131	0.060	-0.034 *	-0.128	0.061	-0.033 *	-0.150	0.059	-0.039 *	-0.131	0.060	-0.034 *
持家(Ref:持家以外)	自分名義持家	-0.042	0.034	-0.021	-0.042	0.033	-0.021	-0.086	0.033	-0.043 **	-0.075	0.033	-0.038 *
	親名義持家	0.142	0.044	0.060 **	0.125	0.043	0.053 **	0.088	0.043	0.038 *	0.082	0.042	0.035 †
老後の経済支援者なし					0.144	0.032	0.069 ***				0.138	0.031	0.067 ***
生計維持手段	仕事収入				0.046	0.031	0.022				0.105	0.030	0.052 ***
	公的年金				0.030	0.032	0.015				0.068	0.031	0.036 *
	企業年金				-0.017	0.049	-0.005				0.031	0.048	0.010
	個人年金				0.099	0.040	0.039 *				0.007	0.039	0.003
	不動産収入				-0.108	0.080	-0.020				-0.189	0.078	-0.035 *
結婚希望 (Ref:わからない)	利息・配当金収入				-0.114	0.048	-0.039 *				-0.130	0.048	-0.045 **
	結婚決定				-0.221	0.100	-0.033 *				-0.176	0.098	-0.027 †
	結婚したい				0.283	0.047	0.109 ***				0.248	0.046	0.098 ***
	結婚希望なし				-0.214	0.037	-0.108 ***				-0.172	0.036	-0.089 ***
調整済R2乗		0.056			0.096			0.065			0.099		
		趣味がない不安						雇用が不安定不安					
		モデル1			モデル2			モデル1			モデル2		
		B	SE	β	B	SE	β	B	SE	β	B	SE	β
	(定数)	2.709	0.076	***	2.930	0.087	***	2.887	0.076	***	2.867	0.086	***
年齢 (Ref:65-69歳)	40-44歳	0.463	0.051	0.183 ***	0.315	0.052	0.125 ***	0.698	0.050	0.265 ***	0.581	0.052	0.220 ***
	45-49歳	0.400	0.050	0.159 ***	0.247	0.052	0.098 ***	0.718	0.050	0.273 ***	0.584	0.051	0.222 ***
	50-54歳	0.339	0.049	0.136 ***	0.216	0.050	0.087 ***	0.666	0.049	0.256 ***	0.569	0.050	0.218 ***
	55-59歳	0.271	0.049	0.108 ***	0.179	0.049	0.071 ***	0.608	0.049	0.232 ***	0.528	0.049	0.202 ***
	60-64歳	0.060	0.048	0.024	0.029	0.048	0.012	0.331	0.048	0.126 ***	0.314	0.047	0.120 ***
性別	男性	0.042	0.029	0.022	-0.013	0.029	-0.007	-0.058	0.029	-0.029 *	-0.105	0.029	-0.053 ***
最終学歴 (Ref:大卒)	中・高・その他	-0.013	0.033	-0.007	-0.013	0.032	-0.007	0.001	0.033	0.000	-0.004	0.032	-0.002
	短大・専修	0.020	0.038	0.009	0.008	0.038	0.003	0.023	0.038	0.010	0.011	0.038	0.005
配偶関係	未婚	-0.090	0.028	-0.048 **	-0.103	0.028	-0.055 ***	-0.011	0.028	-0.005	-0.015	0.028	-0.008
世帯収入		0.000	0.000	-0.042 **	0.000	0.000	-0.036 *	0.000	0.000	-0.096 ***	0.000	0.000	-0.091 ***
健康状態		-0.154	0.015	-0.156 ***	-0.156	0.015	-0.158 ***	-0.159	0.015	-0.154 ***	-0.165	0.014	-0.160 ***
居住状況	単独世帯	0.027	0.033	0.014	0.013	0.033	0.007	-0.051	0.033	-0.026	-0.068	0.032	-0.035 *
資産形成方法 (Ref:何もない)	高流動資産のみ	-0.080	0.034	-0.039 *	-0.032	0.034	-0.016	-0.101	0.034	-0.047 **	-0.088	0.034	-0.041 *
	高流動&低流動	-0.131	0.038	-0.060 **	0.008	0.043	0.004	-0.171	0.038	-0.076 ***	-0.044	0.043	-0.020
	低流動資産のみ	-0.151	0.059	-0.040 *	-0.074	0.060	-0.020	-0.188	0.058	-0.048 **	-0.106	0.059	-0.027 †
持家(Ref:持家以外)	自分名義持家	-0.050	0.033	-0.025	-0.041	0.032	-0.021	-0.242	0.032	-0.117 ***	-0.218	0.032	-0.106 ***
	親名義持家	0.077	0.042	0.033 †	0.070	0.042	0.030 †	0.037	0.042	0.015	0.040	0.041	0.016
老後の経済支援者なし					0.078	0.031	0.038 *				0.163	0.031	0.077 **
生計維持手段	仕事収入				0.045	0.030	0.022				0.238	0.030	0.113 ***
	公的年金				-0.143	0.031	-0.075 ***				-0.031	0.031	-0.016
	企業年金				-0.021	0.047	-0.007				-0.061	0.047	-0.019
	個人年金				-0.010	0.039	-0.004				-0.030	0.039	-0.012
	不動産収入				-0.181	0.078	-0.034 *				-0.161	0.077	-0.029 *
結婚希望 (Ref:わからない)	利息・配当金収入				-0.170	0.047	-0.059 ***				-0.221	0.047	-0.074 ***
	結婚決定				-0.282	0.098	-0.044 **				-0.119	0.097	-0.018
	結婚したい				0.138	0.046	0.055 **				0.197	0.045	0.075 ***
	結婚希望なし				-0.189	0.036	-0.098 ***				-0.096	0.036	-0.048 **
調整済R2乗		0.068			0.097			0.152			0.186		

***p<.000, **p<.01, *p<.05, †p<.10

図表 23 老後不安の規定要因まとめ

		生活	健康	生活費	住宅	家族	面倒	話し相手	恋人	看取り	葬儀やお墓	趣味	雇用
年齢	40-44歳	+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	45-49歳	+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	50-54歳	+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	55-59歳	+	+	+	+	+	+	+	+		+	+	+
	60-64歳	+		+	+	+	+						+
男性		-	-	-	-	-	-	-	+		-		-
学歴	中・高・その他			+									
	短大・専修								-				
未婚									-	+	+	-	
世帯収入		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
健康状態		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
単独世帯		-	-	-	-	-					-		-
資産形成方法	高流動のみ						+						-
	高流動&低流動												
	低流動のみ			-						-	-		
持家	自分名義	-	-	-	-	-	-	-			-		-
	親名義				-			+		+			
老後の経済支援者なし		+	+	+	+		+	+	+	+	+	+	
生計維持手段	仕事	+	+	+	+	+			+		+		+
	公的年金	+	+	+			+		-		+	-	
	企業年金												
	個人年金									+			
	不動産	-		-	-		-	-			-	-	-
	利息・配当金	-	-	-	-	+		-	-	-	-	-	-
結婚希望	結婚決定					-			-	-		-	
	結婚したい	+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	結婚希望なし					-		-	-	-	-	-	-

図表 23 は図表 20 から 22 で分析した結果において、統計的な有意が確認できた独立変数の一覧である。プラス (+) マークは不安と正の関係があるもの、マイナス (-) マークは負の関係を表す ($p < .05$ のみ表記)。不安の 12 分野を従属変数とする分析結果からは、低年齢であること、女性、老後の経済支援者がいないこと、老後の生計維持手段として仕事収入や公的年金を想定していること、結婚したいと考えていることは不安を高め、世帯収入が多いこと、健康状態がよいこと、自分名義の持家があることは不安を低下させる効果があることが読み取れる。

不安に対する資産形成方法の影響については、生計維持手段を投入しないモデルでは、「生活費」「住宅」「恋人」「看取り」「葬儀やお墓」「趣味」「雇用」で資産形成の低減効果が認められた。しかし、老後の経済的見通しに関わる変数(生計維持手段、経済的支援者)を統制するとその効果は弱まり、統計的に有意な効果が確認できたのは「生活費」「看取り」「葬儀やお墓」であった。以上を踏まえると、資産形成の有無や方法それ自体が老後不安を直接的に規定する効果は限定的であり、老後の生活をどの程度具体的に見通しているか、また老後の経済的資源をどのように構想できているかといった条件が、老後不安の低減において重要な役割を果たしている可能性が示唆される。つまり、資産形成が老後不安のすべての側面に一様に作用するわけではなく、特定の領域において相対的に重要な意

味をもつ可能性がある。とりわけ、利息・配当・不動産といった将来の収入源に結びつく資産を保有している場合には、老後の生活をより具体的に想定しやすい条件が整っていると考えられ、こうした条件が一部の老後不安の低下と関連している可能性がある。

以上より、資産形成は老後不安の低減において一定の役割を果たしうるものの、その効果は老後の経済資源に関する見通しや生活設計の具体性と組み合わせることで、より意味をもつと考えられる。

図表 24、図表 25 は老後不安の規定要因に関する男性分析の結果である。全体分析と同様に、不安の領域は異なっても規定要因の効果には類似性がみられ、不安を高める要因は、年齢が低いこと、経済支援を受けられる相手がいないこと、結婚したい意向があることである。そして世帯収入が多いほど、健康状態が良好なほど、結婚希望がないことは不安を低下させる。「生活」「生活費」「住宅」「雇用不安」といった経済的側面に関連する不安の規定要因を見ると、自分名義持家、利息・配当金収入があることに低減効果があるが、資産形成方法との関連は確認できない。「家族」「面倒」「話し相手」「恋人」といった人間関係に関する不安を見ると、話し相手や恋人について、未婚者は離別者に比べて不安が低く、家族については単独世帯が不安を低減させる。最後の看取りや葬儀やお墓といった終末期の不安について、特徴的な規定要因は確認できない。

女性の老後不安の規定要因を分析した図表 25・図表 26 においても、全体分析や男性分析と同様に、年齢が低いほど不安が高く、世帯収入が多いほど、健康状態が良好なほど不安は低い。また単独世帯は、「恋人」、「看取り」、「趣味」を除き不安を低下させる効果が確認できる。資産形成については、「高流動資産」や「低流動資産」の不安低減効果は見られず、むしろ自分名義の持家は複数の不安領域において不安を低下させる効果が確認できる。仕事収入や公的年金が生計維持手段であることは不安を高め、不動産収入や利息・配当金収入は生活不安や雇用不安など複数の不安を低下させる効果が見られた。女性では、「面倒」という人間関係や終末期の不安に対する未婚の効果が高いことが特徴的であった。

図表 24 老後不安の規定要因：男性# 1

		生活不安				健康不安				生活費不安				住宅不安			
		B	SE	β		B	SE	β		B	SE	β		B	SE	β	
(定数)		3.718	0.108		***	4.057	0.102		***	3.671	0.109		***	3.314	0.116		***
年齢 (Ref:65-69歳)	40-44歳	0.127	0.065	0.055	†	0.018	0.062	0.008		0.210	0.066	0.088	**	0.282	0.070	0.113	***
	45-49歳	0.188	0.065	0.082	**	0.039	0.062	0.017		0.235	0.066	0.099	***	0.282	0.070	0.113	***
	50-54歳	0.199	0.063	0.087	**	0.029	0.060	0.013		0.279	0.064	0.119	***	0.268	0.068	0.108	***
	55-59歳	0.186	0.062	0.081	**	0.062	0.059	0.028		0.255	0.063	0.108	***	0.217	0.067	0.087	**
	60-64歳	0.116	0.060	0.050	†	0.005	0.057	0.002		0.148	0.061	0.063	*	0.096	0.064	0.038	
最終学歴 (Ref:大卒)	中・高・その他	-0.010	0.038	-0.006		0.013	0.036	0.007		0.019	0.039	0.011		-0.021	0.041	-0.011	
	短大・専修	-0.021	0.055	-0.008		-0.008	0.052	-0.003		-0.011	0.055	-0.004		0.028	0.059	0.010	
配偶関係	未婚	-0.046	0.035	-0.027		-0.026	0.033	-0.015		-0.057	0.035	-0.032		0.017	0.037	0.009	
世帯収入		0.000	0.000	-0.174	***	0.000	0.000	-0.134	****	-0.001	0.000	-0.196	***	0.000	0.000	-0.107	***
健康状態		-0.248	0.018	-0.279	***	-0.329	0.017	-0.380	***	-0.246	0.018	-0.268	***	-0.189	0.020	-0.196	***
居住状況	単独世帯	-0.089	0.043	-0.050	*	-0.065	0.041	-0.037		-0.095	0.043	-0.052	*	-0.018	0.046	-0.009	
資産形成方法 (Ref:何もなし)	高流動資産のみ	0.014	0.045	0.007		0.030	0.042	0.016		-0.018	0.045	-0.009		-0.006	0.048	-0.003	
	高流動&低流動	-0.026	0.053	-0.014		0.002	0.050	0.001		-0.055	0.053	-0.028		-0.008	0.057	-0.004	
	低流動資産のみ	-0.047	0.069	-0.015		-0.066	0.065	-0.022		-0.104	0.070	-0.032		-0.090	0.074	-0.027	
持家(Ref:自分名義持家持家以外)	自分名義持家	-0.095	0.040	-0.054	*	-0.065	0.038	-0.038	†	-0.127	0.040	-0.070	**	-0.470	0.043	-0.246	***
	親名義持家	0.022	0.057	0.010		-0.010	0.054	-0.005		0.064	0.057	0.028		-0.138	0.061	-0.057	*
老後の経済支援者なし		0.106	0.041	0.054	**	0.031	0.039	0.016		0.112	0.041	0.055	**	0.139	0.044	0.065	**
生計維持手段	仕事収入	0.128	0.038	0.069	***	0.070	0.036	0.039	†	0.137	0.038	0.071	***	0.038	0.041	0.019	
	公的年金	0.173	0.039	0.1	***	0.141	0.037	0.084	***	0.172	0.04	0.097	***	-0.032	0.042	-0.017	
	企業年金	-0.049	0.057	-0.018		0.036	0.054	0.014		-0.086	0.058	-0.031		-0.032	0.061	-0.011	
	個人年金	0.065	0.051	0.028		0.056	0.048	0.025		0.025	0.052	0.01		-0.016	0.055	-0.006	
	不動産収入	-0.096	0.088	-0.022		-0.089	0.084	-0.021		-0.208	0.089	-0.046	*	-0.157	0.095	-0.033	†
	利息・配当金収入	-0.13	0.054	-0.055	*	-0.053	0.051	-0.023		-0.214	0.055	-0.088	***	-0.179	0.058	-0.070	**
結婚希望 (Ref:わからない)	結婚決定	-0.034	0.113	-0.006		0.032	0.108	0.006		-0.03	0.115	-0.005		-0.202	0.122	-0.034	†
	結婚したい	0.218	0.052	0.106	***	0.211	0.049	0.105	***	0.221	0.052	0.103	***	0.134	0.056	0.060	*
	結婚希望なし	-0.007	0.044	-0.004		0.005	0.042	0.003		0.016	0.044	0.009		-0.070	0.047	-0.037	
調整済R2乗	0.158				0.196				0.191				0.171				
		家族に先立たれる不安				面倒を見てくれる人いない不安				話し相手がない不安				恋人がない不安			
		B	SE	β		B	SE	β		B	SE	β		B	SE	β	
(定数)		3.340	0.122		***	3.455	0.115		***	3.179	0.116		***	2.996	0.124		***
年齢 (Ref:65-69歳)	40-44歳	0.348	0.074	0.136	***	0.157	0.070	0.065	*	0.244	0.071	0.100	**	0.194	0.075	0.073	*
	45-49歳	0.413	0.073	0.162	***	0.163	0.069	0.068	*	0.218	0.070	0.091	**	0.228	0.075	0.086	**
	50-54歳	0.353	0.071	0.139	***	0.199	0.068	0.083	**	0.254	0.068	0.106	***	0.243	0.073	0.093	**
	55-59歳	0.201	0.070	0.079	**	0.154	0.066	0.064	*	0.132	0.067	0.055	*	0.164	0.072	0.062	*
	60-64歳	0.112	0.068	0.044	†	0.099	0.064	0.041		0.102	0.065	0.042		0.085	0.069	0.032	
最終学歴 (Ref:大卒)	中・高・その他	-0.006	0.043	-0.003		-0.034	0.041	-0.019		-0.036	0.041	-0.020		-0.062	0.044	-0.030	
	短大・専修	-0.005	0.062	-0.002		-0.054	0.058	-0.020		-0.074	0.059	-0.027		-0.060	0.063	-0.020	
配偶関係	未婚	0.000	0.039	0.000		-0.037	0.037	-0.021		-0.110	0.037	-0.061	**	-0.134	0.040	-0.068	**
世帯収入		0.000	0.000	-0.074	**	0.000	0.000	-0.117	***	0.000	0.000	-0.088	***	0.000	0.000	-0.070	**
健康状態		-0.196	0.021	-0.199	***	-0.229	0.019	-0.247	***	-0.195	0.020	-0.209	***	-0.152	0.021	-0.149	***
居住状況	単独世帯	-0.227	0.048	-0.115	***	-0.021	0.046	-0.011		-0.024	0.046	-0.013		0.015	0.049	0.007	
資産形成方法 (Ref:何もなし)	高流動資産のみ	0.049	0.050	0.023		0.053	0.048	0.026		0.056	0.048	0.027		0.019	0.051	0.008	
	高流動&低流動	-0.039	0.060	-0.019		0.024	0.056	0.012		-0.001	0.057	0.000		0.002	0.061	0.001	
	低流動資産のみ	-0.045	0.078	-0.013		-0.004	0.074	-0.001		-0.073	0.074	-0.022		-0.045	0.079	-0.013	
持家(Ref:自分名義持家持家以外)	自分名義持家	-0.097	0.045	-0.049	*	-0.075	0.042	-0.041	†	-0.074	0.043	-0.040	†	-0.047	0.046	-0.023	
	親名義持家	0.065	0.064	0.026		0.055	0.061	0.024		0.102	0.061	0.044	†	0.113	0.065	0.044	†
老後の経済支援者なし		-0.069	0.046	-0.032		0.091	0.044	0.044	*	0.111	0.044	0.053	*	0.109	0.047	0.048	*
生計維持手段	仕事収入	0.086	0.043	0.041	*	0.027	0.040	0.014		0.033	0.041	0.017		0.095	0.044	0.044	*
	公的年金	-0.042	0.044	-0.022		0.122	0.042	0.068	**	0.036	0.042	0.02		-0.053	0.045	-0.027	
	企業年金	0.099	0.064	0.033		-0.079	0.061	-0.028		-0.035	0.061	-0.012		-0.042	0.066	-0.013	
	個人年金	0.023	0.058	0.009		0.109	0.055	0.045	*	0.069	0.055	0.028		0.075	0.059	0.028	
	不動産収入	-0.073	0.1	-0.015		-0.111	0.094	-0.024		-0.17	0.095	-0.037	†	-0.095	0.101	-0.019	
	利息・配当金収入	-0.11	0.061	-0.042	†	-0.082	0.058	-0.033		-0.105	0.058	-0.043	†	-0.199	0.062	-0.074	**
結婚希望 (Ref:わからない)	結婚決定	-0.28	0.128	-0.047	*	-0.244	0.121	-0.043	*	-0.214	0.122	-0.038		-0.602	0.131	-0.097	***
	結婚したい	0.141	0.059	0.061	*	0.277	0.055	0.128	***	0.269	0.056	0.124	***	0.402	0.060	0.169	***
	結婚希望なし	-0.167	0.049	-0.087	***	-0.092	0.047	-0.051	†	-0.168	0.047	-0.092	***	-0.325	0.050	-0.164	***
調整済R2乗	0.125				0.118				0.116				0.152				

***p<.000, **p<.01, *p<.05, †p<.10

図表 25 老後不安の規定要因：男性# 2

		最期の看取り不安			葬儀やお墓不安			趣味がない不安			雇用が不安定不安		
		B	SE	β	B	SE	β	B	SE	β	B	SE	β
	(定数)	3.163	0.122	***	3.200	0.121	***	2.972	0.118	***	2.933	0.119	***
年齢 (Ref:65-69歳)	40-44歳	0.101	0.074	0.040	0.093	0.074	0.037	0.275	0.072	0.112 ***	0.494	0.072	0.192 ***
	45-49歳	0.140	0.074	0.056 †	0.096	0.073	0.038	0.290	0.071	0.119 ***	0.540	0.072	0.211 ***
	50-54歳	0.150	0.072	0.060 *	0.166	0.071	0.067 *	0.273	0.069	0.112 ***	0.578	0.070	0.228 ***
	55-59歳	0.073	0.071	0.029	0.134	0.070	0.054 †	0.159	0.068	0.065 *	0.469	0.069	0.184 ***
	60-64歳	0.021	0.068	0.008	0.039	0.067	0.016	0.067	0.066	0.027	0.316	0.066	0.124 ***
最終学歴 (Ref:大卒)	中・高・その他	-0.003	0.043	-0.002	0.020	0.043	0.011	-0.035	0.042	-0.018	-0.016	0.042	-0.008
	短大・専修	-0.012	0.062	-0.004	-0.025	0.061	-0.009	0.021	0.060	0.008	0.075	0.060	0.026
配偶関係	未婚	-0.056	0.039	-0.030	-0.019	0.039	-0.010	-0.086	0.038	-0.047 *	-0.032	0.038	-0.017
世帯収入		0.000	0.000	-0.097 ***	0.000	0.000	-0.093 ***	0.000	0.000	-0.042 †	0.000	0.000	-0.094 ***
健康状態		-0.167	0.021	-0.172 ***	-0.179	0.020	-0.185 ****	-0.197	0.020	-0.208 ***	-0.186	0.020	-0.187 ***
居住状況	単独世帯	0.009	0.049	0.005	-0.036	0.048	-0.019	0.054	0.047	0.028	-0.058	0.047	-0.029
資産形成方法 (Ref:何も ない)	高流動資産のみ	0.002	0.051	0.001	0.023	0.050	0.011	-0.012	0.049	-0.006	-0.099	0.049	-0.046 *
	高流動&低流動	-0.040	0.060	-0.019	-0.043	0.059	-0.021	-0.013	0.058	-0.007	-0.085	0.058	-0.040
	低流動資産のみ	-0.120	0.078	-0.035	-0.107	0.078	-0.031	-0.082	0.075	-0.025	-0.141	0.076	-0.041 †
持家(Ref: 持家以外)	自分名義持家	-0.052	0.045	-0.027	-0.042	0.045	-0.022	-0.061	0.043	-0.032	-0.193	0.044	-0.098 ***
	親名義持家	0.092	0.064	0.038	0.109	0.064	0.045 †	0.124	0.062	0.053 *	0.020	0.063	0.008
老後の経済支援者なし		0.118	0.046	0.054 *	0.103	0.046	0.048 *	0.1	0.045	0.047 *	0.118	0.045	0.054 **
生計維持手 段	仕事収入	0.046	0.043	0.023	0.094	0.043	0.046 *	0.063	0.041	0.032	0.190	0.042	0.092 ***
	公的年金	0.014	0.045	0.007	0.042	0.044	0.022	-0.108	0.043	-0.059 *	-0.058	0.043	-0.030
	企業年金	-0.051	0.065	-0.017	0.010	0.064	0.003	0.081	0.062	0.028	-0.043	0.063	-0.015
	個人年金	0.156	0.058	0.061 **	0.084	0.057	0.033	-0.068	0.056	-0.027	0.014	0.056	0.005
	不動産収入	-0.131	0.1	-0.027	-0.201	0.099	-0.042 *	-0.124	0.096	-0.027	-0.182	0.097	-0.037
	利息・配当金収入	-0.116	0.061	-0.045 †	-0.134	0.061	-0.052 *	-0.197	0.059	-0.078 ***	-0.203	0.060	-0.078 **
結婚希望 (Ref:わか らない)	結婚決定	-0.204	0.129	-0.034	-0.214	0.128	-0.036 †	-0.24	0.124	-0.042 †	-0.119	0.125	-0.020
	結婚したい	0.282	0.059	0.124 ***	0.230	0.058	0.102 ***	0.131	0.057	0.059 *	0.170	0.057	0.074 **
	結婚希望なし	-0.19	0.05	-0.101 ***	-0.193	0.049	-0.103 ***	-0.163	0.048	-0.089 ***	-0.103	0.048	-0.053 *
調整済R2乗		0.096			0.097			0.113			0.168		

***p<.000, **p<.01, *p<.05, † p<.10

図表 26 老後不安の規定要因：女性# 1

		生活不安				健康不安				生活費不安				住宅不安			
		B	SE	β		B	SE	β		B	SE	β		B	SE	β	
(定数)		3.507	0.109		***	3.906	0.102		***	3.398	0.108		***	3.230	0.120		***
年齢 (Ref:65-69歳)	40-44歳	0.161	0.066	0.070	*	0.102	0.062	0.046		0.265	0.066	0.114	***	0.341	0.073	0.131	***
	45-49歳	0.207	0.065	0.091	**	0.121	0.062	0.054	†	0.280	0.065	0.120	***	0.284	0.072	0.109	***
	50-54歳	0.155	0.063	0.069	*	0.116	0.060	0.054	†	0.271	0.063	0.118	***	0.245	0.070	0.095	***
	55-59歳	0.211	0.061	0.093	**	0.121	0.058	0.055	*	0.294	0.061	0.127	***	0.291	0.068	0.113	***
	60-64歳	0.122	0.060	0.054	*	0.033	0.056	0.015		0.184	0.060	0.080	**	0.162	0.066	0.063	*
最終学歴 (Ref:大卒)	中・高・その他	0.112	0.044	0.064	*	0.066	0.041	0.039		0.143	0.043	0.081	**	-0.002	0.048	-0.001	
	短大・専修	0.078	0.045	0.042	†	0.053	0.042	0.030		0.083	0.044	0.044	†	-0.012	0.049	-0.006	
配偶関係	未婚	0.052	0.035	0.031		-0.005	0.033	-0.003		0.025	0.035	0.014		0.007	0.039	0.004	
世帯収入		0.000	0.000	-0.099	***	0.000	0.000	-0.082	***	0.000	0.000	-0.106	***	0.000	0.000	-0.074	**
健康状態		-0.228	0.018	-0.253	***	-0.314	0.017	-0.361	***	-0.223	0.018	-0.243	***	-0.162	0.020	-0.158	***
居住状況	単独世帯	-0.097	0.040	-0.057	*	-0.107	0.038	-0.065	**	-0.082	0.040	-0.047	*	-0.100	0.044	-0.052	*
資産形成方法 (Ref:何も ない)	高流動資産のみ	0.082	0.042	0.045	†	0.066	0.039	0.038	†	0.015	0.042	0.008		0.030	0.046	0.015	
	高流動&低流動	0.091	0.055	0.044	†	0.126	0.052	0.063	*	-0.004	0.055	-0.002		0.074	0.061	0.031	
	低流動資産のみ	-0.037	0.082	-0.009		-0.001	0.078	0.000		-0.097	0.082	-0.024		-0.077	0.091	-0.018	
持家(Ref: 自分名義持家 持家以外)	自分名義持家	-0.172	0.042	-0.093	***	-0.100	0.039	-0.056	*	-0.175	0.041	-0.094	***	-0.626	0.046	-0.300	***
	親名義持家	0.047	0.049	0.024		0.034	0.046	0.018		0.071	0.049	0.035		-0.224	0.054	-0.098	***
老後の経済支援者なし		0.162	0.037	0.092	***	0.103	0.035	0.060	**	0.176	0.037	0.098	***	0.274	0.041	0.136	***
生計維持手 段	仕事収入	0.119	0.037	0.065	**	0.032	0.035	0.018		0.171	0.037	0.092	***	0.135	0.041	0.065	**
	公的年金	0.148	0.039	0.085	***	0.144	0.037	0.087	***	0.161	0.039	0.092	***	-0.025	0.043	-0.013	
	企業年金	-0.051	0.062	-0.017		0.005	0.059	0.002		-0.047	0.062	-0.015		-0.047	0.069	-0.014	
	個人年金	-0.005	0.047	-0.002		-0.015	0.045	-0.007		-0.093	0.047	-0.043	*	-0.039	0.052	-0.016	
	不動産収入	-0.227	0.111	-0.041	*	-0.120	0.105	-0.023		-0.164	0.111	-0.029		-0.143	0.123	-0.023	
	利息・配当金収入	-0.133	0.067	-0.044	*	-0.107	0.063	-0.037	†	-0.297	0.066	-0.097	***	-0.041	0.074	-0.012	
結婚希望 (Ref:わか らない)	結婚決定	0.044	0.134	0.007		0.078	0.126	0.012		0.172	0.133	0.026		-0.129	0.148	-0.017	
	結婚したい	0.315	0.065	0.117	***	0.332	0.061	0.128	***	0.308	0.064	0.112	***	0.220	0.072	0.072	**
	結婚希望なし	0.096	0.046	0.052	*	0.112	0.044	0.063	*	0.115	0.046	0.061	*	-0.019	0.051	-0.009	
調整済R2乗	0.146				0.180				0.184				0.194				
		家族に先立たれる不安				面倒を見てくれる人いない不安				話し相手がない不安				恋人がない不安			
		B	SE	β		B	SE	β		B	SE	β		B	SE	β	
(定数)		3.271	0.126		***	3.220	0.116		***	3.024	0.125		***	2.419	0.129		***
年齢 (Ref:65-69歳)	40-44歳	0.400	0.076	0.151	***	0.176	0.070	0.074	*	0.373	0.076	0.147	***	0.502	0.078	0.182	***
	45-49歳	0.333	0.076	0.126	***	0.201	0.070	0.085	**	0.218	0.075	0.086	**	0.367	0.078	0.133	***
	50-54歳	0.298	0.073	0.114	***	0.179	0.067	0.076	**	0.141	0.073	0.056	†	0.265	0.075	0.097	***
	55-59歳	0.233	0.071	0.089	**	0.173	0.065	0.073	**	0.185	0.071	0.073	**	0.262	0.073	0.096	***
	60-64歳	0.137	0.069	0.052	*	0.112	0.064	0.047	†	0.058	0.069	0.023		0.078	0.071	0.029	
最終学歴 (Ref:大卒)	中・高・その他	0.111	0.051	0.055	*	0.072	0.046	0.040		0.005	0.050	0.003		-0.054	0.052	-0.026	
	短大・専修	0.112	0.052	0.052	*	0.016	0.047	0.009		0.022	0.051	0.011		-0.084	0.053	-0.038	
配偶関係	未婚	0.072	0.041	0.036	†	0.125	0.038	0.070	**	0.025	0.041	0.013		-0.004	0.042	-0.002	
世帯収入		0.000	0.000	-0.041	†	0.000	0.000	-0.086	***	0.000	0.000	-0.076	**	0.000	0.000	-0.038	†
健康状態		-0.186	0.021	-0.179	***	-0.195	0.019	-0.207	***	-0.157	0.021	-0.156	***	-0.053	0.022	-0.049	*
居住状況	単独世帯	-0.295	0.046	-0.149	***	-0.090	0.042	-0.050	*	-0.078	0.046	-0.041	†	0.019	0.047	0.009	
資産形成方法 (Ref:何 もない)	高流動資産のみ	0.024	0.049	0.011		0.098	0.045	0.052	*	0.004	0.048	0.002		-0.015	0.050	-0.007	
	高流動&低流動	0.044	0.064	0.019		0.114	0.059	0.053	†	0.005	0.063	0.002		0.042	0.065	0.017	
	低流動資産のみ	-0.056	0.095	-0.013		-0.047	0.088	-0.012		-0.022	0.094	-0.005		0.061	0.098	0.013	
持家(Ref: 自分名義持家 持家以外)	自分名義持家	-0.150	0.048	-0.071	**	-0.122	0.044	-0.063	**	-0.049	0.048	-0.024		0.019	0.050	0.008	
	親名義持家	0.115	0.057	0.049	*	0.048	0.052	0.023		0.086	0.056	0.039		0.054	0.058	0.022	
老後の経済支援者なし		-0.042	0.043	-0.02		0.188	0.039	0.102	***	0.14	0.042	0.071	***	0.095	0.044	0.045	*
生計維持手 段	仕事収入	0.123	0.043	0.058	**	0.069	0.039	0.036	†	0.063	0.042	0.031		0.054	0.044	0.025	
	公的年金	0.031	0.045	0.016		0.098	0.042	0.054	*	0.015	0.045	0.008		-0.189	0.046	-0.091	***
	企業年金	0.039	0.072	0.011		0.016	0.066	0.005		-0.064	0.071	-0.019		-0.015	0.074	-0.004	
	個人年金	-0.08	0.055	-0.032		-0.017	0.050	-0.008		0.015	0.054	0.006		-0.011	0.056	-0.004	
	不動産収入	-0.085	0.129	-0.013		-0.217	0.118	-0.037	†	-0.317	0.128	-0.051	*	-0.163	0.132	-0.024	
	利息・配当金収入	-0.228	0.077	-0.065	**	0.003	0.071	0.001		-0.131	0.077	-0.039	†	-0.178	0.079	-0.049	*
結婚希望 (Ref:わか らない)	結婚決定	-0.159	0.155	-0.021		-0.019	0.143	-0.003		-0.289	0.154	-0.04	†	-0.378	0.159	-0.048	*
	結婚したい	0.285	0.075	0.091	***	0.304	0.069	0.108	***	0.241	0.074	0.08	**	0.378	0.077	0.116	***
	結婚希望なし	-0.049	0.054	-0.023		-0.008	0.049	-0.004		-0.122	0.053	-0.06	*	-0.473	0.055	-0.213	***
調整済R2乗	0.141				0.108				0.091				0.169				

***p<.000, **p<.01, *p<.05, †p<.10

図表 27 老後不安の規定要因：女性# 2

		最期の看取り不安			葬儀やお墓の不安			趣味がない不安			雇用が不安定不安		
		B	SE	β	B	SE	β	B	SE	β	B	SE	β
(定数)		2.942	0.129	***	2.949	0.126	***	2.845	0.127	***	2.696	0.124	***
年齢 (Ref:65-69歳)	40-44歳	0.204	0.078	0.077 **	0.252	0.076	0.098 **	0.357	0.077	0.138 ***	0.646	0.075	0.240 ***
	45-49歳	0.181	0.078	0.069 *	0.225	0.076	0.088 **	0.215	0.077	0.083 **	0.614	0.075	0.228 ***
	50-54歳	0.185	0.075	0.071 *	0.219	0.073	0.086 **	0.175	0.074	0.068 *	0.542	0.072	0.204 ***
	55-59歳	0.124	0.073	0.047 †	0.162	0.071	0.064 *	0.202	0.072	0.079 **	0.575	0.070	0.216 ***
	60-64歳	0.044	0.071	0.017	0.090	0.069	0.035	-0.001	0.070	0.000	0.303	0.068	0.114 ***
最終学歴 (Ref:大卒)	中・高・その他	-0.022	0.052	-0.011	0.050	0.050	0.025	0.003	0.051	0.001	0.015	0.050	0.007
	短大・専修	-0.013	0.053	-0.006	-0.012	0.052	-0.006	0.006	0.052	0.003	-0.007	0.051	-0.003
配偶関係	未婚	0.200	0.042	0.101 ***	0.152	0.041	0.079 ***	-0.108	0.041	-0.056 **	0.003	0.040	0.001
世帯収入		0.000	0.000	-0.065 **	0.000	0.000	-0.071 **	0.000	0.000	-0.025	0.000	0.000	-0.080 ***
健康状態		-0.140	0.022	-0.134 ***	-0.136	0.021	-0.134 ***	-0.118	0.021	-0.116 ***	-0.140	0.021	-0.132 ***
居住状況	単独世帯	-0.060	0.047	-0.030	-0.133	0.046	-0.069 **	-0.012	0.047	-0.006	-0.076	0.045	-0.038 †
資産形成方法 (Ref:何もない)	高流動資産のみ	0.050	0.050	0.024	0.005	0.048	0.002	-0.044	0.049	-0.022	-0.084	0.048	-0.040 †
	高流動&低流動	-0.011	0.065	-0.005	0.020	0.064	0.009	0.029	0.065	0.012	-0.002	0.063	-0.001
	低流動資産のみ	-0.131	0.098	-0.029	-0.159	0.095	-0.037 †	-0.070	0.096	-0.016	-0.067	0.094	-0.015
持家(Ref:持家以外)	自分名義持家	-0.032	0.050	-0.015	-0.108	0.048	-0.052 *	-0.012	0.049	-0.006	-0.252	0.048	-0.116 ***
	親名義持家	0.129	0.058	0.055 *	0.054	0.057	0.024	0.037	0.057	0.016	0.052	0.056	0.022
老後の経済支援者なし		0.1571	0.044	0.077 ***	0.157	0.043	0.079 ***	0.063	0.043	0.031	0.197	0.042	0.094 ***
生計維持手段	仕事収入	0.0474	0.044	0.023	0.117	0.042	0.057 **	0.04	0.043	0.019	0.288	0.042	0.135 ***
	公的年金	0.0248	0.046	0.012	0.080	0.045	0.041 †	-0.177	0.046	-0.09 ***	-0.016	0.045	-0.008
	企業年金	0.0169	0.074	0.005	0.051	0.072	0.015	-0.123	0.073	-0.036 †	-0.078	0.071	-0.022
	個人年金	0.0567	0.056	0.023	-0.055	0.055	-0.023	0.029	0.055	0.012	-0.067	0.054	-0.026
	不動産収入	-0.064	0.132	-0.01	-0.164	0.129	-0.026	-0.249	0.13	-0.04 †	-0.128	0.127	-0.020
	利息・配当金収入	-0.095	0.079	-0.027	-0.107	0.077	-0.032	-0.119	0.078	-0.035	-0.234	0.076	-0.066 **
結婚希望 (Ref:わからない)	結婚決定	-0.269	0.159	-0.036 †	-0.135	0.155	-0.018	-0.355	0.157	-0.048 *	-0.100	0.153	-0.013
	結婚したい	0.2855	0.077	0.092 ***	0.264	0.075	0.087 ***	0.163	0.076	0.053 *	0.242	0.074	0.076 **
	結婚希望なし	-0.233	0.055	-0.109 ***	-0.141	0.054	-0.068 **	-0.215	0.054	-0.103 ***	-0.079	0.053	-0.037
調整済R2乗	0.097			0.096			0.084			0.194			

***p<.000, **p<.01, *p<.05, †p<.10

6 まとめ

本研究は、中年期独身者の増加という社会状況を背景に、後年期までを対象とした未婚者・離別者の資産形成と老後不安の関係、ならびに資産形成および老後不安の規定要因を明らかにすることを目的に行った。未婚者と離別者の違いにも注目し、資産形成方法の違い（高流動資産のみ、高流動資産+低流動資産、低流動資産のみ、資産形成何もない）が老後不安の多面的領域にどのように関係するかを検討した。その結果、明らかになったことは以下の通りである。

第一に、資産形成の実態として、性別・配偶関係にかかわらず高流動資産である預貯金の構成比が最も大きい一方で、株式・REIT、投資信託・ETFといった長期的な保有によるリターンが期待でき、かつ、リスクのある資産は男性で相対的に高い傾向が確認された。また、資産形成を何もしていない割合は性別・配偶関係を通じて高く、未婚者・離別者の資産形成における脆弱性を示唆する結果となった。持家に関しては、男性の持家率が女性より高く、未婚者では親名義持家に居住する割合が相対的に高い傾向がみられた。さらに、低流動資産による資産形成を行っている場合に自分名義持家の割合が高いなど、資産形成方法と住居資産の間には統計的に有意な関連が確認された。

第二に、資産形成方法の規定要因に関する多変量解析では、世帯収入、学歴、キャリア、居住状況、親からの経済支援、就業希望ならびに生活設計の有無といった要因が、

資産形成方法と系統的に関連することが示された。とくに「生活設計を行っていない」ことや「可能な限り働きたい」といった将来見通しに関わる変数は、低流動資産を含む資産形成を行いにくい／資産形成がない状態と関連しており、研究背景で述べた「独身者における生活設計の困難さ」が資産形成行動と結びついている可能性が示唆された。

第三に、老後不安については、12領域それぞれで水準が異なり、性別・配偶関係による差異も観察された。資産形成方法との関係では、低流動資産を保有している場合に多くの領域で不安が低い一方、資産形成がない場合や高流動資産のみの場合には不安が相対的に高い傾向がみられた。重回帰分析の結果、資産形成方法の効果は一部領域で確認されるものの、老後の経済支援者の有無や生計維持手段に関する変数を投入すると弱まる場合もあり、老後不安の低減には資産形成の有無に加えて、老後の生活を具体的に見通せる条件（経済支援の有無、資産収入の見込み等）が重要である可能性が示された。

以上の結果は、独身者の老後生活リスクの低減に向けて、(a)資産形成を継続可能にする所得・就業条件への支援、(b)生活設計や老後の見通しを可視化する情報提供、学習機会の整備や専門家による助言体制の整備、(c)親資源に依存しない形での住居・生活基盤の確保、といった多面的支援の必要性を示唆する。一方で本稿は横断データに基づく分析であり、資産形成と不安の因果方向については慎重な解釈が必要である。

【謝辞】

本稿は、公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構による「第6回独身者（40～60代）の老後生活設計ニーズに関する調査」の成果の一部である。本稿作成にあたり、研究会座長である高山憲之理事長、板谷英彦専務理事、仲津留隆審議役、福山圭一上席研究員、稲垣誠一主任研究員、嶋津基主任研究員の皆様からは、本研究を発表した際に貴重なご助言をいただくとともに、全体的なご指導、ご鞭撻をいただいた。さらに研究員である、日本福祉大学・藤森克彦教授、上智大学・丸山桂教授、日本大学・平河茉璃絵専任講師からも有益なコメントをいただいた。ここに記し感謝の意を申し上げたい。申し上げるまでもなく、本稿にあり得る誤りについてはすべて筆者の責任に帰する。

参考文献

- 阿部彩（2024）「相対的貧困率の動向（2022 調査 update）」JSPS 22H05098，
<https://www.hinkonstat.jp/>（閲覧日：2026年2月12日）
- 大風薫（2022）「現役世代男女の生きがいとメンタルヘルス—階層、ライフイベント、資産形成に注目して—」公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構、『Web Journal 年金研究』No.19，pp.54-83.
- 大風薫（2023）「シングル女性の仕事と貧困リスク—未婚期間の長期化に見る就業継続可能性の低下要因」独立行政法人労働政策研究・研修機構『日本労働研究雑誌』No.750，38-48.
- 大風薫（2024）「現役世代男女の資産形成とメンタルヘルス—資産の種類及びジェンダー差異に着目して—」一般財団法人ゆうちょ財団『季刊個人金融』2024秋，pp.13-24.

- 大塚忠義 (2023) 「現役世代の老後生活費への不安感の要因分析」一般財団法人ゆうちょ財団『季刊個人金融』2023 夏, pp.13-22.
- 栗田照久 (2024) 「資産運用立国の実現」日本 FP 学会交流会資料 <https://www.fsa.go.jp/common/conference/danwa/commissioner/240311.pdf> (閲覧日 2026 年 2 月 12 日)
- 国立社会保障・人口問題研究所 (2025) 「人口統計資料集 (2025 年版)」 <https://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/Popular2025.asp?chap=0> (閲覧日 2026 年 2 月 12 日)
- 斎藤知洋 (2021) 「非婚化時代における中高年未婚者の生活実態—『生活と支え合いに関する調査 (2017 年)』 個票データを用いた分析—」国立社会保障・人口問題研究所『Working Paper Series (J)』35, https://ipss.repo.nii.ac.jp/record/56/files/IPSS_WPJ35.pdf (閲覧日 2026 年 2 月 12 日)
- 四方理人 (2012) 「未婚女性の老後の生活不安」公益財団法人家計経済研究所『季刊家計経済研究』94, pp.43-54.
- 清水遼太郎 (2025) 「ファイナンシャル・ウェルビーイング実現に向けた老後資産形成・資産活用計画策定の方向性」一般財団法人ゆうちょ財団『季刊個人金融』2025 夏, pp.30-38.
- 田中规子 (2014) 「不安の規定要因—年金と健康と生活不安」お茶の水女子大区『生活社会科学』第 21 号, pp.1-16.
- 筒井義郎・大竹文雄・池田新介 (2010) 「なぜあなたは不幸なのか」大竹文雄・白石小百合・筒井義郎編著『日本の幸福度 格差・労働・家族』日本評論社, pp.33-74.
- 西村幸満 (2005) 「老後の不安—不安要因のトレンドと規定要因の変遷」国立社会保障・人口問題研究所『季刊社会保障研究』41(11), pp.4-11
- 平河茉莉絵 (2021) 「老後の生活設計に対する阻害要因とその理由に関する分析」公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構、『Web Journal 年金研究』No.15, pp.77-95.
- 藤森克彦 (2021) 「中年未婚者の生活実態と老後の備えに関する分析—「単身世帯」と「親と同居する世帯」の比較—」公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構、『Web Journal 年金研究』No.15, pp.52-76.
- 松浦民恵 (2011) 「中高年男性の不安の構造を探る—パネル調査の分析を通じて」独立行政法人労働政策研究・研修機構『日本労働研究雑誌』No.616, pp.59-73.
- 丸山桂 (2021) 「中年未婚者の iDeCo 加入に関する実証分析」公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構、『Web Journal 年金研究』No.15, pp.2-16.
- 室住眞麻子 (2021) 「老後生活の 6 つの不安：生活運用と自己決定支援を中心に」社会政策学会『社会政策』第 13 号第 1 号, pp.1-4.
- 山田昌弘 (2019) 「独身者の生活実態」日本家族社会学会『家族社会学研究』31(2), pp.150-159.
- 山田昌弘 (2021) 「中年独身者の生活実態と将来不安—50 第独身者への質問し調査から—」中央大学『中央大学社会科学研究所年報』第 26 号, pp.15-30.
- Beverly, S. G., & Sherraden, M., 1999, “Institutional determinants of saving:

- Implications for low-income households and public policy,” *Journal of Socio-Economics*, 28(4), pp.457-473.
- Bialowlski, P., Weziak-Bialowolska, D., & VanderWeele, T. J., 2019, “The impact of savings and credit on health and health behaviours: An outcome-wide longitudinal approach,” *International Journal of Public Health*, 64(4), pp.573-584.
- Bialowlski, P., Xiao, J. J., & Weziak-Bialowolska, D., 2024, “Do all savings matter equally? Saving types and emotional well-being among older adults: Evidence from panel data,” *Journal of Family and Economic Issues*, 45, pp.88-105.
- Burnett, J., Davis, K., Murawski, C., Wilkins, R., & Wilkinson, N., 2018, “Measuring the adequacy of retirement savings,” *Review of Income and Wealth*, 64(4), pp.900-927.
- Feldman, G., 2018, “Saving from poverty: A critical review of individual development accounts,” *Critical Social Policy*, 38(2), pp.181-200.
- Forsyth C. J. & E. L. Johnson, 1995, “A Sociological View of the Never Married,” *International Journal of Sociology of the Family*, 25(2), 91-104.
- Knoll M. A. S, C. R. Tamborini, & K. Whitman, 2012, “I Do...Want to Save: Marriage and Retirement Savings in Young Households,” *Journal of Marriage and Family*, 74: pp.86-100.
- Scanlon, E., & C. Page-Adams, 2001, “Effects of Asset Holding on Neighborhoods, Families, and Children: A Review of Research,” R. Boshara eds., *Building Assets*, Washington DC: Corporation for Enterprise Development, pp.25-50.
- Scott, J., Williams, D., Gilliam, J., & Sybrowsky, J. P., 2013, “Is an all cash emergency fund strategy appropriate for all investors?, ” *Journal of Financing Planning*, 26(9), pp.56-62.
- Timonen, V. & M. Doyle, 2014, “Life-long singlehood: intersections of the past and the present,” *Ageing & Society*, 34: 1749-1770.